

基礎分野

授業科目名	人間と環境			担当教員	伊藤 昭三 ・ 池島 三与子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目 的	医学、看護学と密接に関連している物理学・化学・生物学の基礎を学び、科学的な考え方の基盤とし、看護の臨床判断に対する洞察力、判断力を高める。
目 標	1. 代表的な物理法則を理解し、日常使われている物理量と単位について理解できる。 2. 生体を構成する物質に関する基礎知識が理解できる。 3. 生命体としての人の構造と機能および人の発生と遺伝が理解できる。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	物理①	物理を学ぶための準備 運動と力 熱 音と光	伊藤
2	/	物理②	電気と磁気 放射線 医療における放射線の利用	伊藤
3	/	化学①	化学の単位と元素の周期表 物質の三態	伊藤
4	/	化学①	気体の性質 液体・溶液の性質	伊藤
5	/	化学②	化学反応・反応速度 化学平衡	伊藤
6	/	化学③	原子の構造と化学結合 無機化学	伊藤
7	/	化学④	有機化学 高分子化学	伊藤
8	/	生物学①	生物学を学ぶにあたって 生命体のつくりとはたらき	池島
9	/	生物学②	生命維持のエネルギー 細胞の増殖と体の成り立ち	池島
10	/	生物学③	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ(1)	池島
11	/	生物学④	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ(2)	池島
12	/	生物学⑤	生殖と発生	池島
13	/	生物学⑥	個体の調節	池島
14	/	生物学⑦	刺激の受容と行動	池島
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:		授業の復習を受講したその日に 5 分間おこなう		
使用テキスト:		プリント使用 (伊藤) 高畑雅一 他「系統看護学講座 基礎分野 生物学」(医学書院) (池島)		
参考文献:		奈良雅之「系統看護学講座 基礎分野 化学」(医学書院) 豊岡了他「系統看護学講座 基礎分野 物理」(医学書院)		

基礎分野

授業科目名	文章表現法			担当教員	檜村 紀元
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目 的	1. 論理の形式や構造を学び、日本語を読み、書く力を高める。 2. 自分の考えを深め、理解力と表現力を高める。
目 標	1. レポートや論文などの理論的な文章を書く際の、文章作成上の基本的なルールが身につく。 2. 正しい日本語の表現方法がわかる。 3. 自分の考えを述べる書き方を身につける。
評価方法	1.筆記試験(60%) 2.レポート(30%) 3.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	文章構成①	論理学とは何か 課題文「20 年後の自分のイメージ」
2	/	文章構成②	論理学と看護師 「課題文について」自分を表現する
3	/	日本語について①	語句の正しい意味 (No.1～No.3)
4	/	日本語について②	語句の正しい用法
5	/	日本語について③	文法的な正しさ (No.1、No.2)
6	/	文章表現①	敬語とは (丁寧語、尊大語、侮蔑語)
7	/	文章表現②	敬語とは (尊敬語、謙譲語)
8	/	文章表現③	わかりやすい表現
9	/	文章表現④	手紙文を推敲する
10	/	文章表現⑤	意見文①②
11	/	レポートを書く技術	課題文「胸打つ若い言葉」を読んで自分の文章を書く
12	/	レポートを書く技術	課題文について自分を表現する
13	/	レポートを書く技術	課題文「寂聴さんの遺言」を読んで自分の文章を書く
14	/	レポートを書く技術	課題文について自分を表現する
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	課題文に対するレポート提出あり		
使用テキスト:	レジメを作成しテキストとして配布		
参考文献:	稲賀敬二監修「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 三浦俊彦「論理学がわかる事典」(日本実業出版社) 大野晋「日本語練習帳」(岩波新書)		

基礎分野

授業科目名	看護情報学Ⅰ			担当教員	城戸 聡
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目 的	医療関連情報は多種・多様となり、文書処理、情報の分類、画像処理、通信、計算、意思決定などコンピューター処理は不可欠である。情報処理関連用語の理解とコンピューター操作に慣れる。
目 標	1. ワードプロセッサ、表計算コンピューター、プレゼンテーションソフトの操作ができる。 2. 医療機関での医療情報の流れ、保管・共有の仕組みがわかる。 3. 情報倫理、医療倫理について理解し、取り扱い方法がわかる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	情報の定義と特徴	①情報とは ②情報の特性 ③情報の認知と意思決定 ④情報の伝達とコミュニケーション
2	/	情報化社会	①情報化社会の成立 ②情報化社会で求められること
3	/	入力の基本Ⅰ・文書作成①	①日本語入力の基本 ②テキストボックス、図形挿入、レイアウト
4	/	入力の基本Ⅱ・文書作成②	①日本語入力の基本 ②書式設定、さまざまな機能(挿入、表示等)
5	/	入力の基本Ⅲ・エクセル①	①エクセルの基本的機能 ②表計算の基礎(SUM,AVERAGE など)
6	/	入力の基本Ⅲ・エクセル②	①表の作成 ②さまざまなグラフの作成
7	/	入力の基本Ⅲ・エクセル③	①表計算(セルの書式設定、表の作成) ②グラフの作成
8	/	入力の基本Ⅲ・エクセル④	①データの視覚化 ②グラフ作成とテクニック、ワードへの貼り付け
9	/	入力の基本Ⅳ ・パワーポイント①	①資料の作成と事前準備 ②スライド作成と発表
10	/	入力の基本Ⅳ ・パワーポイント②	①効果的なスライド作成 ②さまざまなスライドの作成(アニメーション・図の挿入)
11	/	Excel による統計解析①	①データの入力形式と表示方法 ②データの種類と単純計算
12	/	Excel による統計解析②	①量的データの取り扱い ②正規分布について
13	/	個人情報の保護	①情報社会における生活 ②情報セキュリティとネット被害
14	/	コンピュータリテラシーと セキュリティ	①コンピューターに関する基礎知識 ②インターネットに関する基礎知識と注意点
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		中山和弘他「系統看護学講座 別巻 看護情報学」(医学書院) 富士通 FOM 編「情報リテラシー入門編 Windows11/Office 2021 対応」(富士通 FOM)	
参考文献:		講義時に提示する	

基礎分野

授業科目名	看護情報学Ⅱ			担当教員	町田 一哉
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	医療、看護分野では様々な情報がコンピューターによって処理されている。スタッフ間での情報共有も進んでいる。的確な看護臨床判断を行なうためにもデータを活用し、的確な看護援助につなげられるよう学ぶ。
目標	1. 看護データ、医療情報を得て情報を統合し看護臨床判断を行なうための基礎的知識が身につく。 2. 情報管理、医療倫理について理解し、取り扱い方法がわかる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	保健医療と情報	医療における情報 エビデンス情報に基づいた保健医療 ヘルスプロモーションと情報
2	/	看護と情報	看護における情報 情報社会と看護
3	/	医療における情報システム	医療における情報の記録 病院情報システムと記録の仕方 地域医療福祉のネットワークと情報システム
4	/	情報倫理と医療	情報倫理とは 知的財産権 プライバシーの尊重
5	/	患者の権利と情報	患者の権利と自己決定への支援 診療情報の開示
6	/	既存の情報の収集方法	文献検索 インターネット上で役立つ情報へのアクセス データ検索と利用
7	/	質問紙調査によるデータ収集	調査とそのプロセス 調査の計画・準備 調査の実施とデータ収集 データ分析の準備
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		中山和弘他「系統看護学講座 別巻 看護情報学」(医学書院)	
参考文献:		講義時に提示する	

基礎分野

授業科目名	保健体育			担当教員	川口 亮
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目 的	健康が求める健康について理解し、自己の健康維持と身体と心の調和のとれた状態を学ぶ
目 標	1. 生活のなかでの健康のとらえ方、保持増進・疾病予防、精神の健康などを理解し、看護学の基礎として活用できる。 2. 運動に伴う心身の変化、適応について実技を交えながら学ぶ。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	現代社会と健康	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 運動と健康
2	/	健康の保持増進	生活習慣 6つの要素
3	/	健康の保持増進	運動とは 骨格筋の知識
4	/	健康の保持増進	トレーニング 筋力トレーニング
5	/	健康の保持増進	ストレッチング 静的ストレッチングの実践
6	/	健康の保持増進	有酸素運動 サーキットトレーニング
7	/	健康の保持増進	腰痛予防 セルフエクササイズ
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	教育学			担当教員	外部講師
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目 的	社会の本質、目的、方法、評価を学び、看護・医療との関連の理解を深める。 教育制度、現代教育の課題について学び、専門職業人として教育の意義を学ぶ。
目 標	1. 現代社会を形成する人々の教育が課されてきた歴史を理解する。 2. 教育と子供の活動、人間の生活との関係、教育が子供の成長や社会の発展に対して、どんな役割を持つかについて学ぶ。
評価方法	1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	社会の中の教育と看護	社会・文化・人間形成 機能化された社会における教育と看護
2	/	教育とはなにか-「教育」の概念	日常用語としての「教育」 子どもを価値とする「教育」
3	/	教育の対象-子ども観と発達	子ども観の形成とその背景 発達という見方 権利主体としての子ども
4	/	社会変動と教育	大衆社会の成立と変容 少子化動向
5	/	教育の組織化-学校	学校の役割と機能 文化伝達としての学校方式
6	/	教授-人を教えるということ	コミュニケーションとしての教えること 学ぶ・教えるということ
7	/	訓育-他者とのかかわりを導く 養護-教育の受け手を見まもる	訓育とはなにか 訓育の新たなかたち 養護とは 学校における養護の機能
8	/	発達-教育を受けて成長する	発達を支える・促す 発達における身体と感情
9	/	学びの場-家庭と学校	学びの場=学校という規範 家族にとっての学校の意味 「学校に行かない子ども」をどう考えるか
10	/	教育の目標と評価 教育のメディア	評価と目標の関係 現在の目標・評価論 パフォーマンス評価 メディアと教育
11	/	教育の担い手-専門性と専門職性	教育の様々な担い手と学校教員 教員の仕事の特質
12	/	教育の場の変動-教育の環境の変化にどう対応するか。 キャリア教育	発達保障の在り方を誰が決めるのか 教育の場の広がりについてどう対応するか キャリア教育の時代の到来 これからのキャリア教育
13	/	ジェンダーとセクシュアリティ 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	ジェンダー、セクシュアリティとはなにか ジェンダーと教育の課題 障害・看護・教育 障害にどう向き合うか
14	/	生涯学習 シティズンシップ教育	生涯学習の必要性 成人はどのように学ぶのか 公共性とは何か シティズンシップ教育とはなにか
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		木村元編「系統看護学講座 基礎分野 教育学」(医学書院)	
参考文献:			

基礎分野

授業科目名	社会学			担当教員	門林 道子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	人間が生活している社会は変化し、それに伴い日常生活も変化している。変化が健康や看護や社会とどのように関わっているか保健医療の観点から理解し、社会人・職業人としての関わりかたの基本的な考え方を学ぶ。
目標	1. 社会学の基本概念がわかる。 2. 人間が社会的な存在であることを理解する。 3. 健康が社会とどのように関連しているか、理解できる。 4. 社会の中で健康維持のための保健医療制度の在り方を学ぶ。 5. 現代社会の諸問題について学ぶ。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	社会学の基礎概念	行為 集団・ネットワーク 社会変動とグローバリゼーション 合意とコンフリクト 構造と解釈・過程
2	/	現代社会論	人口動態統計からみる現代社会 孤独死と葬送儀礼の変容
3	/	社会調査の理論と技法	社会調査 量的調査と質的調査 量的調査の企画と実施 質的調査の方法 社会調査の倫理
4	/	現代家族論	「家族」とはなにか 現代社会における「家族」問題
5	/	健康・病気の社会格差 高齢者をめぐる諸問題	健康・病気の社会格差の諸相 社会格差是正の取り組みと可能性 「老年期」というライフステージ
6	/	保健医療の専門職 地域社会と保健医療	専門職論(専門職の変容・現在) 看護職とチームケア 保健医療職種間の協働 コミュニティと地域 ヘルスプロモーションにおける地域
7	/	性・ジェンダー・家族と保健医療	性別・性差とは ジェンダーとケア役割・ジェンダーと健康 男女共同参画社会の形成に向けた取り組み コミュニティと地域 ノーマライゼーションと地域
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	医療英語 I			担当教員	子安 直彦
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	基礎的な英語力および、オーラル・コミュニケーションの向上を目指す。
目標	1. 基礎的な医療英語を理解する。 2. 英語による簡単なオーラル・コミュニケーションができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	Checking In	学習目標・教材紹介・相互自己紹介と関連表現の学習 Tell me about yourself
2	/	Checking In	Registration Form 国籍・宗教・婚姻について
3	/	General Consultation	Symptoms Clinical Department
4	/	Vital Signs	The human body (1) ナースが扱う代表的な医療器具
5	/	Admission and Orientation to the Hospital Routine	Patient Room Hospital Unit
6	/	Data Collection from Patients	Severity and Types of pain The people who work at a hospital
7	/	Daily Activities	The human body (2) 健康度をチェックしよう
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		仁木久恵他「Let's Listen, Speak and Learn 臨床看護英語」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	医療英語Ⅱ			担当教員	子安 直彦
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	基礎的な医療英語を理解したうえで、医療従事者として必要な英語力と知識の向上を目指す。
目標	医療に関連する基本的な英語表現がわかり、オーラル・コミュニケーションができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	医療英語Ⅰの復習	よく使う表現のおさらい 医療単語について
2	/	Tests	The human body (3) 排泄補助具
3	/	Procedures	The human body (4) 呼吸法
4	/	Positioning the Patients in Bed	Common Illness and Conditions 移動補助具
5	/	Bath and Comfort	Prefixes (1) 励まし・安心感を与える表現
6	/	Patient Teaching	Prefixes (2) Suffixes
7	/	Small Talk	Common Abbreviations 単位の換算
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		仁木久恵他「Let's Listen, Speak and Learn 臨床看護英語」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	心理学			担当教員	深堀 友覚
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	人間の行動・情緒・性格や基本的な人間関係について学び、自己及び他者の心理について理解を深める。
目標	1. 心理学の研究対象や研究方法およびその変遷について理解する。 2. さまざまな心理現象の仕組みや特徴について理解できる。 3. 人間の社会的行動を理解できる。 4. 患者及び援助者の心理を理解したうえで看護に活かすことができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	心理学とは	①心理学とはどのような学問か ②対人援助と心理学 ③心理学の歴史 ④心理学的研究方法
2	/	感覚と知覚	①外界を理解する心のはたらき ②感覚の仕組みと働き ③知覚の仕組みと働き
3	/	記憶	①記憶のメカニズム ②感覚・短期記憶と作業記憶 ③長期記憶と忘却
4	/	思考・言語・知能	①思考 ②言語とコミュニケーション ③知能
5	/	学習	①学習とは ②古典的条件付け ③オペラント条件付けと学習の理論
6	/	学習	①社会的学習と効果的な学習方法
7	/	感情と動機づけ	①感情の諸相 ②感情のメカニズム
8	/	感情と動機づけ	①動機づけ ②動機づけの理論
9	/	性格とパーソナリティ	①性格とは ②性格の理論 ③性格の測定
10	/	社会と集団	①社会的認知 ②態度と説得的コミュニケーション ③対人関係と対人魅力 ④集団とリーダーシップ
11	/	発達	①発達とは ②乳幼児の発達 ③自動、青年の発達 ④成人、高齢者の発達
12	/	心理臨床	①心理臨床と臨床心理学 ②心の適応と不適応 (ストレスと適応)
13	/	心理臨床	①心理療法 (心理療法とカウンセリング)
14	/	医療・看護と心理	①医療職と対人援助 ②患者の心理 ③医療、看護職の心理 ④医療、看護職の心のケア
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		山村豊「系統看護学講座 基礎分野 心理学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義内で発表する。	

基礎分野

授業科目名	倫理学			担当教員	門林 道子
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	現代生命倫理にかかわる問題の背景を学び、論理的な思考能力と基本的な人権意識を養う。
目標	1. 現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容が理解できる。 2. 生命倫理の諸問題について、倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力を育む。 3. 医療現場の倫理的な問題に気づくことが出来る感性=倫理的感性を高める。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	生命倫理	倫理学の基本的な考え方 健康・病気・医療の概念
2	/	医の倫理問題	インフォームド・コンセント 告知と自己決定権をめぐって
3	/	いのちの終わりをめぐる諸問題①	終末期医療 ホスピス 緩和ケア
4	/	いのちの終わりをめぐる諸問題②	安楽死 尊厳死
5	/	いのちをめぐる問題①	体外受精 代理母
6	/	いのちをめぐる問題②	先端医療と制度をめぐる生命倫理 遺伝子医療と再生医療
7	/	いのちをめぐる問題③	人間とは何か。 アウシュビッツ強制収容所と優生学的思想について
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	多文化理解			担当教員	門林 道子
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	人間と文化・個人・家族・宗教・健康・死について考える。 様々な文化を理解し、共生する社会について深い洞察力を高める。
目標	1. 文化・通過儀礼・宗教・世界観・死を通して人間のつながりを学び、一個人としての自身を考える原点とする。 2. 様々な文化を理解し、多様な対象へのケアについて考えることができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	人間と文化	①文化人類学における文化 ②文化の諸相 ③文化人類学はどのような学問か ④現代社会と文化人類学の現在
2	/	質的研究とエスノグラフィー	①質的思考から質的研究へ ②文化人類学とエスノグラフィー ③エスノグラフィーを現代に生かす
3	/	個人・家族・家族を超えたつながり	①個人と社会 ②家族 ③家族を超えたつながり
4	/	人生と通過儀礼	①通過儀礼と境界理論 ②ライフサイクルと境界理論 ③儀礼の構造 ④通過儀礼とコミュニティ ⑤なぜ通過儀礼を経なければ大人になれないのか
5	/	宗教と世界観	①文化人類学と「宗教」 ②文化人類学と儀礼研究 ③トランスナショナル時代における宗教と世界観
6	/	健康と医療	①健康と文化 ②病気と治療 ③医療の体系 ④環境と健康
7	/	いのちと文化	①「いのち/生命」の多様性 ②誕生と死における人のいのち/生命 ③いのち/生命と身体
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		波平恵美子他「系統看護学講座 基礎分野 文化人類学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

基礎分野

授業科目名	カウンセリング			担当教員	斉藤 さや可
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	臨床や日常生活に役立つカウンセリング技術を身につけ、自己・他者理解と支援を目指す。
目標	1. カウンセリングの基本的な概念やいくつかの手法についてわかる。 1. 自分自身の問題意識に基づいた自己の振り返りをおこなうことが出来る。 2. コミュニケーションを深める方法を理解し、「関係性」について学習する。 3. カウンセリング体験を通して自己理解・他者理解を深める。 4. カウンセリング演習を通して心理援助の基本的態度を学ぶ。
評価方法	1.筆記試験(60%) 2.レポート(30%) 3.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	心理療法がめざすもの
2	/	概論①	心理療法のあゆみ
3	/	概論②	人の心の成り立ち
4	/	いろいろなカウンセリング①	カウンセリングの基本技術
5	/	いろいろなカウンセリング②	人間性に焦点を当てたカウンセリング
6	/	いろいろなカウンセリング③	イメージ療法
7	/	いろいろなカウンセリング④	芸術療法
8	/	いろいろなカウンセリング⑤	行動に焦点を当てたカウンセリング
9	/	いろいろなカウンセリング⑥	認知能力に焦点を当てたカウンセリング
10	/	いろいろなカウンセリング⑦	家族療法
11	/	いろいろなカウンセリング⑧	集団に焦点を当てたカウンセリング
12	/	いろいろなカウンセリング⑨	日本独自の心理療法
13	/	心理検査	心理検査について
14	/	まとめ	まとめ
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		斉藤さや可 「「ありがとう」で夢をかなえるハローキティの魔法の手帳」(講談社)	

基礎分野

授業科目名	人間関係論			担当教員	斉藤 さや可
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	多角的・包括的に人間を捉え、看護師としての円滑な人間関係構築のための技法を高めることを目指す。
目標	1. 他者理解をするための自己理解の必要性がわかる。 2. 他者を理解し、人間関係構築に必要な要素を身につける。 3. 人間関係で予想されるトラブルを理解し、解決法を身につける。 4. チーム医療において看護専門職及び多職種と協力し、連携するために必要な知識を知る。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	人間関係の中の自己と他者	①人間関係論とは ②自己認知・対人認知
2	/	対人関係と役割	①対人関係の成立・維持と崩壊 ②対人葛藤と対処 ③社会的役割
3	/	態度と対人行動	①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助
4	/	集団と個人	①集団の特性、集団での課題遂行 ②集団での問題解決と意思決定
5	/	コミュニケーション	①対人コミュニケーション ②マスコミュニケーション
6	/	カウンセリングと心理療法	①カウンセリング・心理療法の理論とスキル ②来談者中心療法・行動療法・認知療法
7	/	コーチング	①コーチング理論とスキル ②看護への適応
8	/	アサーティブコミュニケーション	①アサーションの理論とスキル ②看護への応用
9	/	保健医療チームの人間関係	①医療におけるチームと看護師の役割 ②チームワークとチームエラー
10	/	患者を支える人間関係	①患者・医療者関係 ②さまざまな看護場面における人間関係
11	/	家族を含めた人間関係	①家族看護の展開 ②さまざまな状況・患者と家族の看護
12	/	地域を作る人間関係	①個人を取り巻く人間関係 ②人間関係の力が最大になる社
13	/	事例検討Ⅰ	事例Ⅰ うつ病患者への認知再構成法、行動活性化を用いた介入例
14	/	事例検討Ⅱ	事例Ⅱ 教育担当看護師が新人看護師への指導にコーチングを取り入れた事例
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		石川ひろの他「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」(医学書院)	
参考文献:			

基礎分野

授業科目名	キャリアデザイン論Ⅰ			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	看護師としてのキャリアデザインの概要を学び、看護専門職への過程が理解できる。
目標	1. 看護専門職としての成長・発達過程を理解する。 2. 看護の専門性を発展させていく重要性、自己研鑽の意義を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.課題・レポート(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	ガイダンス キャリアデザインとは 何のために働くのか
2	/	自分を知る	自分にとって最も大切なもの －自分の価値観・軸－
3	/	多様化する看護従事者	専門職業人とは 看護職として働くということ
4	/	看護専門職の成長・発達	キャリアの定義 キャリアの発達過程
5	/	キャリア理論	キャリアサイクル キャリアアンカーとキャリアプラン ライフマネープランとライフイベント
6	/	キャリアデザインを支える考え方	自分のイメージを手掛かりにしたキャリア選択とは 「やりたいこと」と「やるべきこと」のバランス 「偶然」でキャリアが作られる
7	/	キャリアデザインの実践	ワーク・ライフ・バランス トランジション(転機・節目)の乗り越えかた 職場に適応する 看護師にとっての「学び」とは キャリアの定期的な見直し
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし。必要に応じて講義資料を配布する。	
参考文献:		勝原裕美子「看護師のキャリア論」(ライフサポート社) 金井壽宏「働く人のためのキャリアデザイン」(PHP 研究所)	

基礎分野

授業科目名	キャリアデザイン論Ⅱ			担当教員	依田 茂樹
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	看護師としてのキャリアデザインの概要を理解し、これからのキャリアプランを考える。
目標	1. 看護サービスのマネジメントを理解する。 2. 看護ケアの質補償を理解する。 3. 組織・チームに対する看護専門職としてのリーダーシップを理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス 継続する看護活動	ガイダンス 生涯学習の在り方と方法 継続教育
2	/	看護サービスのマネジメント	①理念の形成と浸透 ②看護の組織化 ③人事労務管理 ④物的資源の管理
3	/	安全なケアの提供と質補償	①リスクマネジメント
4	/	安全なケアの提供と質補償	②ケアの質評価 ③看護技術の経済評価
5	/	組織・チームに対する看護専門職としてのリーダーシップ	①組織変革とリーダーシップ ②チーム医療における看護専門職としてのリーダー
6	/	後進へ伝えるということ	新人教育と指導
7	/	自己の展望	キャリアデザインのまとめ
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし。必要に応じて講義資料を配布する。	
参考文献:		勝原裕美子「看護師のキャリア論」(ライフサポート社) 金井壽宏「働く人のためのキャリアデザイン」(PHP 研究所)	

専門基礎分野

授業科目名	代謝栄養学			担当教員	松村 聡 ・ 池島 三与子
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	人体の構成成分や代謝および生体の防御機構について学ぶ。 健康を維持する栄養学の基礎を学び、ライフステージ別の臨床栄養を学ぶ。 遺伝情報の仕組みと役割について学ぶ。
目標	1. 生体を構成する物質を理解する。 2. 恒常性を維持するメカニズムを理解し、メカニズムの破綻より引き起こされる疾病を理解する。 3. ライフステージに合わせた健康管理の特徴を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【生化学】 代謝総論	代謝とは ホルモン作用機序	池島
2	/	栄養素の構造と性質	①細胞 ②糖質 ③脂質 ④タンパク質 ⑤核酸 ⑥ビタミン ⑦無機質	池島
3	/	酵素・さまざまな代謝	①さまざまな代謝 ②糖質代謝 ③脂質代謝	池島
4	/	さまざまな代謝・代謝の統合と制御	①タンパク質代謝 ②核酸代謝 ③エネルギー代謝の統合と制御	池島
5	/	遺伝情報	①遺伝情報 ②遺伝子の変化 ③先天性代謝異常	池島
6	/	【栄養学】 人間栄養学と看護	①栄養とは ②栄養素と人間の栄養状態 ③保健・医療における栄養 ④看護と栄養	松村
7	/	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	①食物の消化 ②栄養素の吸収 ③血漿成分と栄養素 ④栄養素の代謝 ⑤吸収・代謝産物の排泄	松村
8	/	エネルギー代謝 食事と食品	①食品のエネルギー ②エネルギー消費 ①食事摂取基準 ②食品に含まれる栄養素	松村
9	/	栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定	①栄養スクリーニング ②栄養ケア・マネジメントの評価 ①栄養アセスメントの意義 ②栄養アセスメントの方法・評価	松村
10	/	ライフステージと栄養Ⅰ	①乳児期 ②幼児期 ③学童期 ④思春期・青年期 ⑤成人期	松村
11	/	ライフステージと栄養Ⅱ	①妊娠期 ②授乳期 ③更年期 ④高齢期	松村
12	/	臨床栄養Ⅰ	①チームで取り組む栄養管理 ②病院食 ③栄養補給方法 ④経腸栄養製品 ⑤静脈栄養剤	松村
13	/	臨床栄養Ⅱ	⑥疾患・症状別食事療法 ⑦術前・術後の栄養管理 ⑧がんの食事療法	松村
14	/	健康づくりと食生活	①食生活の変遷と栄養の問題点 ②生活習慣病の予防 ③食生活の改善への施策 ④食の安全性と表示	松村
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 宮澤恵二「ナースングラフィカ 人体の構造と機能(2) 臨床生化学」(メディカ出版) 關戸 啓子「ナースングラフィカ 人体の構造と機能(4) 臨床栄養学」(メディカ出版)				
参考文献: 必要に応じて講義資料を配布する。				

専門基礎分野

授業科目名	臨床微生物学			担当教員	城田 恵次郎
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	1. 人体に微生物が侵入すると、どのような反応や現象が起こるかを学ぶ。 2. 感染症から人体を守るための予防や対処法を学ぶ。
目標	1. 微生物の種類、および形態と特徴について理解する。 2. 微生物による感染と感染対策、生体防御機構について理解する。 3. 主な病原微生物について治療法および看護援助に生かす方法がわかる。
評価方法	1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	微生物と微生物学	①微生物の性質 ②微生物と人間 ③微生物学の対象と目的 ④微生物学のあゆみ
2	/	細菌の性質 真菌の性質	①細菌の形態と特徴 ②培養環境と栄養 ③細菌の遺伝 ①真菌の形態と特徴 ②真菌の分類と命名法
3	/	原虫の性質 ウイルスの性質	①原虫の特徴と基本構造 ②病原原虫の種類 ①ウイルスの構造と各部分の機能
4	/	感染と感染症	①微生物感染の機構 ②感染の成立から発症・治癒まで ③細菌・真菌・原虫・ウイルスの感染と機構
5	/	感染に対する生体防御機構	①自然免疫のしくみ ②獲得免疫のしくみ ③粘膜免疫のしくみ ④感染の徴候と症状
6	/	感染源・感染経路からみた感染症 滅菌と消毒	①経口感染 ②経気道感染 ③接触感染 ④経皮感染 ⑤母児感染 ①バイオハザードとバイオセーフティー ②滅菌・消毒の意義と定義 ③滅菌法 ④消毒と消毒薬
7	/	感染症の検査と診断	①病原体を検出する方法 ②生体の反応から診断する方法
8	/	感染症の治療	①化学療法の基礎 ②各種の化学療法薬
9	/	感染症の現状と対策	①感染症の変遷 ②感染症の現状と問題点 ③感染症の対策
10	/	おもな病原微生物	①グラム陽性球菌 ②グラム陰性球菌 ③グラム陰性好気性桿菌 ④グラム陰性通性桿菌
11	/	病原細菌と細菌感染症	⑤カンピロバクター属、ヘリコバクター属 ⑥グラム陽性桿菌 ⑦抗酸菌と放線菌 ⑧嫌気性菌
12	/	病原細菌と細菌感染症	⑨スピロヘータ ⑩マイコプラズマ ⑪リケッチア目 ⑫クラミジア科
13	/	病原真菌と真菌感染症 病原原虫と原虫感染症	①真菌 ②表在性真菌症をおこす真菌 ①根足虫類 ②鞭毛虫類 ③孢子虫類 ④繊毛虫類
14	/	ウイルス感染症	①DNA ウイルス ②RNA ウイルス ③ウイルスの臨床的分類
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		南嶋洋一他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	総合医療論			担当教員	廣内 世英・松村 聡
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	医療や看護の原点から学び、現代医療の実際と今後の課題について理解を深める。
目標	1.保健医療に携わるものとして、今日の医療の現状について。 2.高齢化、医療の高度化・複雑化、医療安全の高まりなど保健・医療・福祉の課題について理解を深める。 3.今後の望ましい医療と社会との関係を洞察できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	医療と看護の原点	①命と健康 ②病の体験 ④癒しの行為と癒しの知 ⑤チーム医療とマネジメント	廣内
2	/	医療の歩みと医療観の変遷	①現代医学の起源 ②20 世紀の医療 ③我が国の医療 ④医療観の移り変わり	松村
3	/	私たちの生活と健康	①現在の医療体制 ②生活と環境衛生、保健・福祉行政 ③一次予防と健康増進 ④心の健康と精神医療	松村
4	/	科学技術の進歩と現代医療の最前線	①科学技術の進歩と社会・生活の変化 ②現代医学と先端医療技術の最前線	松村
5	/	現代医療の新たな課題	①薬の副作用 ②先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ ③生命倫理学と臨床倫理学の展開 ④産業社会の発展と地球環境問題 ⑤インフォームド・コンセント ⑥インフォームド・コンセント医療情報の開示 ⑦医療情報の開示と診療録	松村
6	/	医療を見つめ直す新しい視点	①臨床疫学 ②患者の安全 ③医療の管理と評価 ④これからの先端医療開発	松村
7	/	保健・医療・福祉の潮流	①新時代の保健 ②プライマリケアの新たな展開 ③医療におけるケアの視点 ④保健・医療の国際化 ⑤地域包括医療システムの新しい展開 ⑥保健・医療・福祉システムと地域住民の役割	松村
8	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		小泉俊三他「系統看護学講座 別巻 総合医療論」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	人体の構造と機能 I			担当教員	澁川 義幸 ・ 木村 麻記
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	1. 解剖学で人体の形態と構造を、生理学で役割と機能を学ぶ必要性がわかる。 2. 生命現象の基礎を恒常性の点から学ぶ。
目標	1. 解剖生理学ための基礎的知識を理解する。 2. 人体の各部位の名称と構造の特徴を理解する。 3. 人体を構成する臓器や器官レベルでの生命維持のための働きを知る。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	解剖生理学のための基礎知識	①人体の構造と機能についてなにを学ぶか ②人体の構造と機能をどのように学ぶか	澁川
2	/	細胞	細胞機能について ①細胞の構造 ②細胞を構成物質とエネルギーの生成	澁川
3	/	細胞	③細胞膜の構造と機能 ④細胞の増殖と染色体 ⑤分化した細胞がつくる組織	木村
4	/	皮膚の構造と機能	①皮膚の組織構造 ②皮膚の付属器 ③皮膚の血管と神経	木村
5	/	血液	①血液の組成と機能 ②赤血球 ③白血球	木村
6	/	血液	④血小板 ⑤血漿タンパク質と赤血球沈降速度	木村
7	/	血液	⑥血液の凝固と繊維素溶解 ⑦血液型	木村
8	/	生体防御機構	①非特異的防御機構 ②特異的防御機構－免疫 ③生体防御の関連臓器	木村
9	/	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造と機能 腎臓から分泌される生理活性物質	木村
10	/	腎・泌尿器	糸球体ろ過機能について	木村
11	/	腎・泌尿器	排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿	木村
12	/	腎・泌尿器	体液の調節・酸塩基平衡	木村
13	/	腎・泌尿器	尿細管再吸収・分泌について	木村
14	/	腎・泌尿器	排尿機構について	木村
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ			担当教員	田崎 裕紀
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	1. 解剖学で人体の形態と構造を、生理学で役割と機能を学ぶ必要性がわかる。 2. 生体の恒常性とその維持についての知識を基に、人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に学
目標	1. 解剖生理学のための基礎的知識を理解する。 2. 人体を構成する臓器や器官レベルでの生命維持のための働きを知る。 3. 各器官系の正常な状態を理解する。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	解剖生理学のための基礎知識	解剖生理学的用語①
2	/	解剖生理学のための基礎知識	解剖生理学的用語②
3	/	骨格	・骨の形態と構造 ・骨の名称(体幹上肢)
4	/	骨格	・骨の形態と構造 ・骨の名称(下肢)
5	/	消化器系	①口の構造と機能 ②咽頭と食道の構造と機能 ①胃の構造 ②胃の機能 ③小腸の構造
6	/	消化器系	①便の生成 ②便の排泄 ①膵臓の構造 ②肝臓と胆嚢の構造 ③肝臓の機能
7	/	消化器系	①腹膜と腸間膜 ②腹膜と内臓の位置関係 ③胃の周辺の間膜
8	/	呼吸器系	①呼吸器の構成 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔
9	/	呼吸器系	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸気量 ④ガス交換とガスの運搬
10	/	呼吸器系	⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理
11	/	循環器系	循環器系の構成 心臓の構造
12	/	循環器系	心臓の拍出機能 心臓の興奮とその伝播 心電図
13	/	循環器系	血液の循環の調節 血圧(動脈圧) 血液の循環 血圧・血流量の調節
14	/	血管系	末梢血管系の構造 血管の構造 肺循環の血管
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	人体の構造と機能Ⅲ			担当教員	澁川 義幸 ・ 木村 麻記
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	1. 解剖学で人体の形態と構造を、生理学で役割と機能を学ぶ必要性がわかる。 2. 生命現象の基礎を恒常性の点から学ぶ。
目標	1. 解剖生理学ための基礎的知識を理解する。 2. 人体の各部位の名称と構造の特徴を理解する。 3. 人体を構成する臓器や器官レベルでの生命維持のための働きを知る。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	内分泌	内分泌とホルモン ホルモンの化学構造と作用機序	澁川
2	/	内分泌	①視床下部－下垂体系	澁川
3	/	内分泌	②甲状腺と副甲状腺	木村
4	/	内分泌	全身の内分泌腺と内分泌細胞 ①膵臓 ②副腎 ③性腺	木村
5	/	内分泌	自律神経による調節 ①自立神経の構造・機能 ②自律神経の神経伝達物質と受容体	木村
6	/	内分泌	ホルモン分泌の調節	木村
7	/	内分泌	各種ホルモン作用による調節の実際	木村
8	/	内分泌	内分泌疾患について	木村
9	/	生殖・発生と老化の仕組み	男性・女性生殖器の構造	木村
10	/	女性生殖器	①卵巣 ②卵管・子宮・膣	木村
11	/	女性生殖器	①乳腺 ②女性性周期	木村
12	/	女性生殖器	①女性性周期とホルモン	木村
13	/	男性生殖器	①精巣 ②生殖路 ③男性の外陰部	木村
14	/	男性生殖器	①男性の生殖機能	木村
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	人体の構造と機能Ⅳ			担当教員	田崎 裕紀
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	1. 解剖学で人体の形態と構造を、生理学で役割と機能を学ぶ必要性がわかる。 2. 生体の恒常性とその維持についての知識を基に、人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に学
目標	1. 解剖生理学ための基礎的知識を理解する。 2. 人体を構成する臓器や器官レベルでの生命維持のための働きを知る。 3. 各器官系の正常な状態を理解する。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	骨格と筋系	①関節 ②不動性の連結
2	/	骨格と筋系	①頭頸部の骨格と筋 ②体幹の骨格と筋
3	/	骨格と筋系	①上肢の骨格と筋 ②下肢の骨格と筋
4	/	骨格筋の機能	①骨格筋の構造 ②骨格筋の作用
5	/	骨格筋の機能	①骨格筋の収縮機構 ②骨格筋収縮の種類と特性 ③不随意筋の収縮の特徴
6	/	神経系	神経系の構造と機能 ①神経細胞と支持細胞 ②ニューロンでの興奮の伝導
7	/	神経系	神経系の構造と機能 ③シナプスでの興奮の伝達 ④神経系の構造
8	/	脳の高次機能	①脳波と睡眠 ②記憶 ③本能行動と情動行動 ④内臓調節機能 ⑤中枢神経系の障害
9	/	脊椎と脳	①脊髄の構造と機能 ②脳の構造と機能
10	/	運動機能と下行伝導路	①運動ニューロン ②下行(遠心)伝導路
11	/	感覚機能と上行伝導路	①感覚の種類 ②感覚の性質 ③体性感覚の受容器の種類 ④皮膚の感覚受容器の分布
12	/	感覚器系	眼の構造と視覚 ①眼球の構造 ②眼球付属器 ③視覚
13	/	感覚器系	耳の構造と聴覚・平衡覚 ①耳の構造 ②聴覚 ③平衡覚
14	/	感覚器系	【味覚と嗅覚】 ①味覚器と味覚 ②嗅覚器と嗅覚 【疼痛】 ①痛みの分類 ②疼痛の発生機序
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		坂井建雄「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	病理学総論			担当教員	城田 恵次郎
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	疾病に罹患するとはどのようなことか、正常な細胞・組織の違い、発生原因、進行過程、で生じる様々な現象、身体への影響を理解し、診断方法・治療に関する基本的な考え方を学ぶ。
目標	1. 病理学の基礎知識を学び、対象の身体的アセスメントに繋げる。 2. 機能障害の原因である疾患の発生と経過について理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	病理学で学ぶこと 細胞・組織の障害と修復	【病理学で学ぶこと】 ①看護と病理学 ②病気の原因 ③病気の分類と病理学の学び方 【細胞・組織の障害と修復】 ①細胞・組織の損傷と適応 ②細胞・組織の損傷に対する反応 ③炎症の分類と治療
2	/	免疫、移植と再生医療 感染症	【免疫と免疫不全】 ①免疫と免疫不全 ②アレルギーと自己免疫疾患 ③移植と再生医療 【感染症】 ①感染の成立と感染症の発病 ②おもな感染症 ③感染症の治療・予防
3	/	循環障害	①循環系の概要 ②浮腫(水腫) ③充血とうっ血 ④出血と止血 ⑤血栓症 ⑥塞栓症 ⑦虚血と梗塞 ⑧側副循環による障害 ⑨高血圧症 ⑩播種性血管内凝固症候群(DIC) ⑪ショックと臓器不全
4	/	代謝障害	①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝異常 ④その他の代謝障害
5	/	老化と死 先天異常と遺伝性疾患	①個体の老化と老年症候群 ②老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化 ③個体の死と終末期医療 ①遺伝の生物学 ②先天異常 ③遺伝子の異常と疾患 ④先天異常・遺伝性疾患の診断と治療
6	/	腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がりと影響 ③腫瘍の発生の病理 ④腫瘍の診断と治療
7	/	生活習慣と環境因子による 生体障害	①生活習慣による生体の障害 ②放射線による生体の障害 ③中毒
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学」(医学書院)	
参考文献:		プリントあり。	

専門基礎分野

授業科目名	疾病治療論Ⅰ			担当教員	山舘 周恒
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	病理学総論や人体の構造と機能で学んだことを基に、様々な病気の病態や病気の成り立ちについて学ぶ。
目標	1. 血液・造血器系、呼吸器系の解剖と生理を理解し、各臓器の病態生理の概要を理解する。 2. さまざまな疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	正常と病気の状態
2	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	細胞・組織の障害
3	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	循環障害
4	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	感染症、腫瘍
5	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	先天異常と遺伝子異常
6	/	第1章 病態生理学を学ぶための基礎知識	老化と死
7	/	第2章 皮膚・体温調整のしくみと病態生理	皮膚の生体防御のしくみと障害
8	/	第2章 皮膚・体温調整のしくみと病態生理	体温調節のしくみ、発熱、高体温、低体温
9	/	第3章 免疫のしくみと病態生理	免疫のしくみ
10	/	第3章 免疫のしくみと病態生理	免疫反応の低下
11	/	第3章 免疫のしくみと病態生理	免疫反応の過剰
12	/	第4章 体液調節のしくみと病態生理	体液・電解質の調整
13	/	第4章 体液調節のしくみと病態生理	体液・電解質の調節異常
14	/	第4章 体液調節のしくみと病態生理	酸・塩基平衡のしくみとその異常
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	疾病治療論Ⅱ			担当教員	山舘 周恒
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	病理学総論や人体の構造と機能で学んだことを基に、様々な病気の病態や病気の成り立ちについて学ぶ。
目標	1. 循環器系、腎泌尿器系、免疫についての解剖と生理を理解し、各臓器の病態生理の概要を理解する。 2. さまざまな疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	第5章 血液のはたらきと病態生理	骨髄の機能とその障害、赤血球の機能とその障害
2	/	第5章 血液のはたらきと病態生理	白血球の機能とその障害
3	/	第5章 血液のはたらきと病態生理	血小板と出血傾向
4	/	第6章 循環器のしくみと病態生理	心臓のポンプ機能と病態生理 ①心臓の構造と機能
5	/	第6章 循環器のしくみと病態生理	②心臓の拍出機能の障害
6	/	第6章 循環器のしくみと病態生理	血圧調整と末梢循環のしくみと病態生理 ①血圧と血圧調整のしくみ
7	/	第6章 循環器のしくみと病態生理	②動脈・静脈の障害
8	/	第7章 呼吸のしくみと病態生理	呼吸器の構造と機能、呼吸困難と呼吸不全
9	/	第7章 呼吸のしくみと病態生理	呼吸器系の防御機構の障害
10	/	第7章 呼吸のしくみと病態生理	換気の障害
11	/	第7章 呼吸のしくみと病態生理	ガスの拡散障害、肺循環の障害、呼吸調節の障害
12	/	第7章 呼吸のしくみと病態生理	腎臓の構造と機能
13	/	第9章 腎・泌尿器のしくみと病態生理	腎機能の障害
14	/	第9章 腎・泌尿器のしくみと病態生理	泌尿器のしくみと病態生理
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	疾病治療論Ⅲ			担当教員	山 美喜子
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	病理学総論や人体の構造と機能で学んだことを基に、様々な病気の病態や病気の成り立ちについて学ぶ。
目標	1. 脳・神経系、運動器系、感覚器系の解剖と生理を理解し、各臓器の病態生理の概要を理解する。 2. さまざまな疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	Title H 脳/神経①	脳血管障害(脳卒中) 脳血栓症(アテローム血栓性脳梗塞) 脳塞栓症 脳出血(脳内出血) クモ膜下出血 慢性硬膜下血腫
2	/	Title H 脳/神経②	神経変性疾患 パーキンソン病 脊髄小脳変性症/脊髄小脳失調症 アルツハイマー病 筋萎縮性側索硬化症
3	/	Title H 脳/神経③	中枢神経の脱髄性疾患 多発性硬化症
4	/	Title H 脳/神経④	末梢神経疾患 ギラン・バレー症候群
5	/	Title H 脳/神経⑤	神経・筋接合部疾患 重症筋無力症
6	/	Title H 脳/神経⑥	筋疾患 デュシェンヌ型筋ジストロフィー
7	/	Title H 脳/神経⑦	神経系の感染症 髄膜炎 単純ヘルペス脳炎 プリオン病(クロイツフェルト・ヤコブ病)
8	/	Title H 脳/神経⑧	機能的疾患 てんかん 片頭痛
9	/	Title H 脳/神経⑨	神経系の腫瘍 脳腫瘍 髄膜腫
10	/	Title L 運動器①	外傷 骨折 脱臼・捻挫 主な脊椎・脊髄の疾患
11	/	Title L 運動器②	主な上肢の疾患 (肩関節周囲炎 肘内障 狭窄性腱鞘炎) 主な下肢の疾患 (先天性股関節脱臼 乳児股関節炎他)
12	/	Title L 運動器③	腫瘍 (骨肉腫 転移性骨腫瘍 骨軟骨腫) 主な末梢神経麻痺
13	/	Title O 耳鼻咽喉	解剖と生理 症候 検査と治療 主な疾患(中耳炎 めまい/難聴 鼻・副鼻腔炎他)
14	/	Title P 皮膚	解剖と生理 症候 検査と治療 主な疾患(接触皮膚炎 アトピー性皮膚炎 蕁麻疹他)
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:		国家試験との関連を理解するために毎回小テストを行う。	
使用テキスト:		田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	疾病治療論Ⅳ			担当教員	井出 吉信・山舘 周恒
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	病理学総論や人体の構造と機能で学んだことを基に、様々な病気の病態や病気の成り立ちについて学ぶ。
目標	1. 消化器系、歯・口腔系の解剖と生理を理解し、各臓器の病態生理の概要を理解する。 2. さまざまな疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	Title A 呼吸器①	呼吸器感染症 アレルギー・免疫疾患	山舘
2	/	Title A 呼吸器②	慢性閉塞性肺疾患 間質性肺疾患	山舘
3	/	Title A 呼吸器③	気道系疾患 肺腫瘍 肺循環疾患	山舘
4	/	Title A 呼吸器④	換気異常 呼吸不全	山舘
5	/	Title A 呼吸器⑤	胸膜疾患 縦隔疾患	山舘
6	/	Title B 循環器①	心不全 不整脈 虚血性心疾患	山舘
7	/	Title B 循環器②	心筋疾患 心臓弁膜症 先天性心疾患	山舘
8	/	Title B 循環器③	高血圧症 動脈硬化 動脈疾患 静脈疾患	山舘
9	/	Title C 消化管①	食道の疾患 胃・十二指腸の疾患	山舘
10	/	Title C 消化管②	大腸の疾患 肛門の疾患	山舘
11	/	Title D 肝/胆/膵①	肝臓疾患 胆道疾患	山舘
12	/	Title D 肝/胆/膵②	膵疾患	山舘
13	/	歯・口腔疾患①	【歯・口腔器疾患】 ①歯の異常と疾患 ②口腔領域の炎症 【症状とその病態】 ①痛み ②腫脹 ③口腔出血 他	井出
14	/	歯・口腔系疾患②	【検査と治療・処置】 口腔内外検査 画像検査 齦蝕の治療	井出
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)		
参考文献:		渋谷絹子他「系統看護学講座 専門分野 歯・口腔」(医学書院) 必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	疾病治療論Ⅴ			担当教員	山 美喜子
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	病理学総論や人体の構造と機能で学んだことを基に、様々な病気の病態や病気の成り立ちについて学ぶ。
目標	1. 内分泌系、体液の調節の基本的構造と知識を理解し、各臓器の病態生理の概要を理解する。 2. さまざまな疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	Title E 代謝/栄養	主な疾患 糖尿病 低血糖症 肥満症 メタボリックシンドローム 脂質異常症(高脂血症) 痛風/高尿酸血症他
2	/	Title F 内分泌①	視床下部・下垂体疾患 視床下部腫瘍 下垂体腫瘍
3	/	Title F 内分泌②	視床下部・下垂体疾患 下垂体〔前葉〕機能低下症 バソプレシン分泌過剰症
4	/	Title F 内分泌③	甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症/慢性甲状腺炎
5	/	Title F 内分泌④	甲状腺疾患 甲状腺腫瘍
6	/	Title F 内分泌⑤	副甲状腺疾患 副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症
7	/	Title F 内分泌⑥	副腎疾患 クッシング症候群 原発性アルドステロン症
8	/	Title F 内分泌⑦	副腎疾患 先天性副腎皮質過形成症 褐色細胞腫 アジソン病
9	/	内分泌・代謝疾患⑧	インスリンの作用 糖尿病の分類 その他の代謝疾患 ①脂質異常症、尿酸代謝異常症
10	/	内分泌・代謝疾患⑨	糖尿病の合併症
11	/	Title J 膠原病/アレルギー①	膠原病(関節リウマチ 全身性エリテマトーデス他) 膠原病と同様の全身性炎症性疾患(ベーチェット病)
12	/	Title J 膠原病/アレルギー②	膠原病に関連した疾患(アミロイドーシス) アレルギー性疾患(薬物アレルギー他)
13	/	Title M 女性生殖器①	主な疾患(月経困難症 子宮内膜症 子宮筋腫 子宮癌)
14	/	Title M 女性生殖器②	主な疾患(卵巣腫瘍 乳癌 更年期障害 性感染症 不妊症)
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	国家試験との関連を理解するために毎回小テストを行う。		
使用テキスト:	田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂 4 版」(南山堂)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	臨床治療論 (食事療法・リハビリテーション看護・救急医療・臨床検査)			担当教員	山舘周恒・荒川 友輔 外部講師・専任教員
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	疾患に対する治療法や臨床検査について学ぶ。 診療に関連した滅菌法・消毒法・予防・治療法を学ぶ。
目標	1. 栄養に関する基礎的知識と、疾病の回復を促進する食事療法がわかる。 2. さまざま領域のリハビリテーション療法を理解する。 3. 救命救急の基礎的知識を理解する。 4. 健康な人体の基礎的なデータが理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	栄養食事療法Ⅰ	【栄養食事療法とは】 ①栄養食事療法の概要 ②医療福祉の場における栄養食事療法 ※第 18 章 医療保険制度・介護保険制度と食事	
2	/	栄養食事療法Ⅱ	【栄養食事療法の実際】 ①症状をもつ患者の栄養食事療法 ②呼吸器疾患患者の栄養食事療法 ③循環器疾患患者の栄養食事療法 ④消化器疾患患者の栄養食事療法 ⑤腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法	
3	/	栄養食事療法Ⅲ	⑥栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 ⑦血液疾患患者の栄養食事療法 ⑧アレルギー疾患患者の栄養食事療法 ⑨精神・神経疾患患者の栄養食事療法 ⑩熱傷・褥瘡の栄養食事療法	
4	/	栄養食事療法Ⅳ	⑪術前・術後の栄養管理 ⑫がん患者の栄養食事療法 ⑬妊産婦・更年期女性の栄養食事療法 ⑭小児の栄養食事療法 ⑮高齢者の栄養食事療法	
5	/	リハビリテーション看護Ⅰ	【リハビリテーション概論】 ①リハビリテーションの定義と理念 ②栄養リハビリテーションの対象と制度 ③疾病・障害・生活機能の分類 ④リハビリテーションの分野 ⑤リハビリテーション医療の提供	荒川
6	/	リハビリテーション看護Ⅱ	【リハビリテーション看護概論】 ①リハビリテーション看護の定義と専門化 ②リハビリテーション看護の対象 ③リハビリテーション看護の方法	荒川
7	/	リハビリテーション看護Ⅲ	【部位別リハビリテーション】 ①運動器系の障害とリハビリテーション看護 ②中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 ④呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護 ⑤感覚器系の障害とリハビリテーション看護	荒川

回	日時	授業内容	内容	担当者
8	/	救急医療Ⅰ	【救急看護の概念】 ①救急看護とは ②救急医療体制 ③救急看護の場 ④救急看護と法的・倫理的側面 【救急看護の対象の理解】 ① 救急看護の特徴 ②救急患者家族の特徴	専任
9	/	救急医療Ⅱ	【救急看護体制と看護の展開】 ①初期・第2次救急医療における対応 ②第3次救急医療における対応 ③院内急変時における対応 ④在宅療養における対応 ⑤学校保健における対応 ⑥災害時における対応	専任
10	/	救急医療Ⅲ	【救急患者の観察とアセスメント】 ①周囲の状況確認と感染予防対策 ②全身と外観の観察とアセスメント ② 緊急検査	専任
11	/	救急医療Ⅳ	【主要病態に対する救急処置と看護】 ①心肺停止状態への対応 ②意識障害への対応 ③呼吸障害への対応 ④ショック・循環障害への対応 ⑤急性腹症への対応 他	専任
12	/	臨床検査Ⅰ	【臨床検査とその役割】 ①診療における臨床検査の役割 ②臨床検査の種類 ③臨床検査の場面と目的 ④臨床検査結果の評価 【臨床検査の流れと看護師の役割】 ①臨床検査の流れ ②臨床検査の準備 ③検査を受ける患者への説明と注意 ③ 倦怠の採取方法 ⑤検査に伴う危険とその防止	山舘
13	/	臨床検査Ⅱ	【主な臨床検査】 ①一般検査 ・尿検査 ・便検査 ・体腔内貯留液検査 ②血液学的監査 ・血沈 ・血球 ・出血凝固時間 ③化学検査 ・血清蛋白 ・血清酵素 ・糖代謝 ・脂質代謝 ・腎機能 ・水電解質 ・血液ガス ・鉄代謝 ・ビタミン 血中薬物濃度	山舘
14	/	臨床検査Ⅲ	④免疫・血清学的検査 ⑤内分泌学的検査 ⑥部生物学的検査 ⑦病理学的検査 ⑧生体検査	山舘
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		足立香代子他「系統看護学講座 別巻 栄養食事療法」(医学書院) 武田宣子他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」(医学書院) 山勢博彰他「系統看護学講座 別巻 救急看護学」(医学書院) 奈良信雄編「系統看護学講座 別巻 臨床検査」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門基礎分野

授業科目名	薬理学Ⅰ			担当教員	四宮 敬史
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	薬物の特徴・作用機序・人体への影響・薬物の取り扱いや管理について学ぶ。
目標	1. 薬理学とはどのような学問かを理解する。 2. 薬理学の基本的知識を理解し、発達段階・性差による人体への影響を理解する。 3. 薬と法律の関係について理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	【薬理学総論】 薬理学を学ぶにあたって	薬物治療と看護 薬理学とはなにか
2	/	薬理学の基礎知識	薬が作用するしくみ(薬力学) 薬の体内動態(薬物動態学) ①薬物の投与経路 ②薬物の吸収 ③薬物の分布 ④薬物の代謝と排泄 ⑤治療において重要となる薬物動態の指標
3	/	薬理学の基礎知識	薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性 ①薬物の用量による影響 ②薬物の副作用 ③薬物の反復投与による影響 薬と法律 物質としての薬物の分類
4	/	【薬理学各論】 抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項 抗菌薬 抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 感染症の治療における問題点
5	/	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項 抗がん薬の種類 分子標的薬
6	/	免疫治療薬	免疫系の基礎知識 免疫抑制薬 免疫増強薬・予防接種薬
7	/	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ①抗炎症薬 ②関節リウマチ治療薬 ③痛風・高尿酸血症治療薬
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		吉岡充弘「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	薬理学Ⅱ			担当教員	四宮 敬史
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	薬物療法を受けている対象に、適切な看護の臨床判断をするために、各臓器に作用する薬物の作用・副作用について学ぶ。
目標	1. 疾患ごとの治療薬の種類・作用・副作用を理解する。 2. 治療薬による生体反応を理解する。 3. 理解された薬理学を看護に活かす方法を考える。 4. 漢方医学の基礎的知識がわかる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	薬理学各論	末梢での神経活動に作用する薬物 ①神経系による情報伝達と薬物 ②交感神経作用薬 ③副交感神経作用薬 ④筋弛緩薬・局所麻酔薬
2	/	薬理学各論	中枢神経系に作用する薬物 ①中枢神経系のはたらきと薬物 ②全身麻酔薬 ③催眠薬・抗不安薬 ④抗精神病薬 ⑤抗うつ薬・気分安定薬 ⑥パーキンソン症候群治療薬 ⑦抗てんかん薬 ⑧麻薬性鎮痛薬 ⑨片頭痛治療薬
3	/	薬理学各論	循環器系に作用する薬物 ①降圧薬 ②狭心症治療薬 ③心不全治療薬 ④抗不整脈薬 ⑤利尿薬 ⑥脂質異常症治療薬 ⑦血液凝固系・線溶系に作用する薬物 ⑧血液に作用する薬物
4	/	薬理学各論	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器に作用する薬物 ①呼吸器系に作用する薬物 ②消化器系に作用する薬物 ③生殖器・泌尿器系に作用する薬物
5	/	薬理学各論	物質代謝に作用する薬物 ①ホルモンとホルモン拮抗薬 ②治療薬としてのビタミン
6	/	薬理学各論	皮膚科用薬・眼科用薬 ①皮膚に使用する薬物 ②眼科用薬
7	/	薬理学各論 輸液製剤・輸血剤	救急の際に使用される薬物 ①救急に用いられる薬物 ②急性中毒に対する薬物 漢方薬 消毒薬 輸液製剤・輸血剤
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		吉岡充弘「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	地域看護論			担当教員	佐藤 有岐
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	人々の生活の質の向上と、それを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与するために、現代の地域が抱えている問題点や課題を学習し、地域看護についての基礎知識を学ぶ。
目標	1. 地域社会を対象としたネットワークの必要性がわかる。 2. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病の予防、回復、障害のための看護活動がわかる。 3. 在宅看護が提供される場とその広がりについて理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	地域看護	地域・在宅看護論で学ぶこと
2	/	地域看護	地域・在宅看護の対象の理解
3	/	地域看護	地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法①
4	/	地域看護	地域・在宅看護に欠かせない視点とアプローチ方法②
5	/	在宅看護	地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策①
6	/	在宅看護	地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策②
7	/	在宅看護	地域・在宅看護がかかわる療養の場 事例検討―「暮らし」を理解したうえでのアセスメント
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		池西静江編「基礎からわかる 地域・在宅看護論」(照林社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	公衆衛生学			担当教員	宮嶋 由佳
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	公衆衛生の仕組みを学び、環境と健康の関わり、保健活動について理解する。 対象者中心の安全で安楽な看護を提供するために、対象者を取り巻く人々、関係する組織や行政に目を向けるための基礎的知識を学ぶ。
目標	1. 公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することができる。 2. 看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 3. 地域・学校・職域における公衆衛生活動について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	序章 公衆衛生を学ぶにあたって	みんなの健康 「ひとり」から「みんな」の看護へ 公衆衛生とはなにか 自分の生活と健康に関する社会集団 看護職の公的責任と活動対象
2	/	公衆衛生のしくみ	①政策展開 ②国と地方自治体の役割 ③専門職のはたらき ④多職種・住民との協働
3	/	集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計	①集団として人々の健康を守る ②公衆衛生の場での疫学
4	/	環境と健康 感染症とその予防対策	①地球規模の環境と健康 ②身のまわりの環境と健康 ③日本の環境行政 ①感染症とその予防の基礎知識 ②我が国の感染症対策 院内感染とその予防
5	/	国際保健 地域における公衆衛生の実践	①世界との出会い ②経済格差と健康格差 ③健康格差の解消のために ④国際保健の担い手 ⑤国際保健の共通目標-ミレニアム開発目標(MDGs) ⑥国際保健と日本 ⑦正解のない課題を前にして ①公衆衛生看護とは ②母子保健 ③成人保健 ④高齢者保健 ⑤精神保健 ⑥歯科保健 ⑦障害者保健・難病保健
6	/	学校と健康	①学校における保険とは ②学校保健の展開 ③特別な支援を必要とする子供たち
7	/	職場と健康 危機管理・災害管理	①職場における健康 ②職場における健康を守るしくみ ③産業保健活動の展開 ④今後の課題と新たな動き ①健康危機管理 ②災害保険
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		神尾征峰他「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生」(医学書院) 厚生労働統計協会編「図説国民衛生の動向 新年度版」(厚生労働統計協会)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	健康増進学			担当教員	眞板 隆大
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	健康増進を進めるための知識を幅広い学問体系をもとに学ぶ。
目標	1. 地域で暮らす人々の生活課題に興味を持ち、理解する。 2. ライフステージに応じた「生活」「健康」を知り、維持増進する方法が考えられる。 3. 幅広い視野を持ち、生活課題対応能力をつける。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康とは何か	健康増進の三大基盤要素 生涯健康づくりの重要性
2	/	ライフスタイルの変容と健康	ライフスタイルの変容と影響 平均寿命や死因
3	/	食生活が健康に及ぼす影響	生活習慣病 健康における食事の意味
4	/	メタボリックシンドロームと ライフスタイル	メタボリックシンドロームの定義 予防対策としてのライフスタイルとは
5	/	ロコモティブシンドロームと ライフスタイル	サルコペニア・運動不足による筋力低下 ロコモティブシンドロームを予防し自立したライフスタイル
6	/	ストレスが健康に及ぼす影響	心身の健康における休養 適切な休養とは
7	/	ライフスタイルと QOL の向上	生活の質(QOL)を高めていくためのライフスタイル 講義のまとめ
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	社会福祉論			担当教員	伊東 光明
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	社会保険制度・公的扶助・障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉に関する知識を身につけ、福祉・保健・医療の諸問題を判断する力を獲得する。
目標	1. 社会福祉の歴史と制度について基本的事項を理解する。 2. 医療保障、介護保障、所得補償、公的扶助について理解する。 3. 社会福祉の各分野とサービスについて理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	社会保障制度と社会福祉 現代社会の変化と社会保障・ 社会福祉の動向	社会保障制度 社会福祉の法制度 現代社会の変化 社会保障・社会福祉の動向
2	/	医療保障	医療保障制度の沿革 医療保障制度の構造と体系 健康保険と国民健康保険 高齢者医療制度 保険診療の仕組み 公費負担診療 国民医療費
3	/	介護保障	介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 介護保険制度の概要 介護保険制度の課題と展望
4	/	所得保障と公的扶助	所得保障制度のしくみ 年金保険制度 社会手当 労働保険制度 貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護制度のしくみ 低所得者対策
5	/	社会福祉の分野とサービス	高齢者福祉 障害者福祉 児童家庭福祉
6	/	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助とは 個別援助技術(ケースワーク) 手段援助技術(グループワーク) 間接援助技術と関連援助技術 社会福祉援助の検討課題 連携の重要性 社会福祉実践と医療・看護の連携 連携の場面とその方法
7	/	社会福祉の歴史	社会福祉の歴史の見方 イギリスの社会福祉の歴史 日本の社会福祉の歴史
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		福田素生他「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	癒しの科学			担当教員	外部講師
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	ケアの隣接領域である「癒し」について幅広く学ぶ。看護職に関係の深い「癒し」について科学的な視点から基礎知識を習得する。
目標	癒しの概念を理解し、看護に活かせる方法を知る。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	「癒し」の概念 「癒し」と看護	「癒し」とは。 「癒し」と看護
2	/	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ
3	/	「癒し」の種類・方法	アロマセラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他
4	/	「癒し」の体験	ヒーリング
5	/	「癒し」の体験	アロマセラピー リフレクソロジー
6	/	「癒し」の実践	整膚
7	/	「癒し」の実践とまとめ	「癒し」を看護に活かすには
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		なし	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門基礎分野

授業科目名	看護関連法令			担当教員	小林 憲人
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	法律が医療の世界にどのように関わっているかという視点から看護職に関係の深い法令の基礎知識を習得する。
目標	1. 保健医療福祉に関する主要な法とその概要について理解する。 2. 看護法・医事法・保健衛生法・薬務法などについて基本的事項を理解する
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	法の概念	法の概念 衛生法 厚生行政のしくみ
2	/	看護法	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保に関する法律
3	/	医事法	医療法 医療関係資格法 医療を支える法
4	/	保健衛生法	共通保健法 ・地域保健法 ・健康増進法 分野別保健法 感染症に関する法 食品に関する法 環境衛生法
5	/	薬務法	薬事一般に関する法律 人などの組織を用いた医療関連法 薬害被害者の救済など 麻薬・毒物などの法
6	/	社会保険法 福祉法	医療・介護の費用保障 年金 福祉の基盤 児童分野 高齢分野 障害分野 手当
7	/	労働法と社会基盤整備 環境法	労働法 社会基盤整備など 環境保全の基本法 公害防止の法 自然保護法
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森山幹夫「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	看護学概論Ⅰ			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	看護学の基礎概念である人間・環境・健康から看護の歴史の変遷、理論を通して、「看護とは何か」について理解を深めることができる。また、専門職としての看護の役割と看護活動の実践が理解できる。
目標	1. 歴史的変遷や看護論を通して、看護の概念について理解できる 2. 看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護とは	①看護の本質 ②看護の役割と機能
2	/	看護とは	③看護の継続性と情報共有
3	/	看護の対象の理解	①人間の「こころ」と「からだ」
4	/	看護の対象の理解	②生涯発達しつづける存在としての人間 ③人間の「暮らし」の理解
5	/	国民の健康状態と生活	①健康のとらえ方
6	/	国民の健康状態と生活	②国民の健康状態 ③国民のライフサイクル
7	/	看護の提供者	①職業としての看護 ②看護職の資格・養成制度・就業状況
8	/	看護の提供者	③看護職者の継続教育とキャリア開発 ④看護職の養成制度の課題
9	/	看護における倫理	①現代社会と倫理 ②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理
10	/	看護における倫理	③看護実践における倫理問題への取り組み
11	/	看護の提供のしくみ	①サービスとしての看護 ②看護サービス提供の場
12	/	看護の提供のしくみ	③看護をめぐる制度と政策 ④看護サービスの管理 ⑤医療安全と医療の質保証
13	/	広がる看護の活動領域	①国際化と看護
14	/	広がる看護の活動領域	①災害時における看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		茂野香おる他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論」(医学書院) 助川尚子訳「ナイティンゲール看護覚え書き書 決定版」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	ヘルスアセスメント			担当教員	佐々木 順承
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	対象者の身体的・精神的・社会的な健康状態を把握し、必要な看護を見出すためのヘルスアセスメント技術について教授する。ヘンダーソンの基本的看護の構成要素 14 項目に沿って人間の生活を系統的に捉えるための観察技術ならびに対象者をアセスメントしてケアにつながる看る力の基礎を養う。
目標	1. あらゆる場面に共通するヘルスアセスメントについて理解し、活用できる。 2. 必要な看護を見出すためのヘルスアセスメント技術を理解する。
評価方法	1.筆記試験 (90%) 2.授業への参加態度・状況 (10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念	ヘルスアセスメントとは 観察に必要な技術	佐々木
2	/	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの概念	面接法による情報収集	佐々木
3	/	ヘルスアセスメント	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	佐々木
4	/	ヘルスアセスメント	基本的観察技術と身体各部位の測定方法 (身長・体重・腹囲)	佐々木
5	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	呼吸器系のフィジカルアセスメント	佐々木
6	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	循環器系のフィジカルアセスメント	佐々木
7	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	消化器系のフィジカルアセスメント	佐々木
8	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント	佐々木
9	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	中枢神経系・意識レベルのフィジカルアセスメント	佐々木
10	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント概要	精神・社会的側面のアセスメント	佐々木
11	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント技術	呼吸器系・循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント技術	佐々木
12	/	バイタルサイン測定【演習】	体温、脈拍、呼吸、血圧測定の実際①	佐々木
13	/	バイタルサイン測定【演習】	体温、脈拍、呼吸、血圧測定の実際②	佐々木
14	/	バイタルサイン測定【演習】	体温、脈拍、呼吸、血圧測定の実際③	佐々木
15	/	試験	筆記試験	佐々木
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。			
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 医療情報科学研究所「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」(メディックメディア) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)			
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅰ (コミュニケーションと環境)			担当教員	専任教員 夏堀 のぞみ
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	援助の共通基本技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。
目標	1. 患者と看護者の人間関係を築くためのコミュニケーションの意義と目的を理解し活用できる。 2. 病床環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を实践できる感性を養うことができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	コミュニケーション	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義
2	/	コミュニケーション	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義/演習
3	/	コミュニケーション	効果的なコミュニケーションの技法 アサーティブネス	講義/演習
4	/	コミュニケーション	コミュニケーション障害への対応	講義/演習
5	/	環境調整技術	環境の概念 環境構成要素と環境調整	講義
6	/	環境調整技術	病床環境の調整 リネン類の扱い方、リネン交換の基本	講義
7	/	環境調整技術	ベッドメイキング	演習
8	/	環境調整技術	ベッドメイキング	演習
9	/	環境調整技術	臥床患者のリネン交換	演習
10	/	安全確保の技術	誤薬防止、チューブ類の事故防止	講義
11	/	安全確保の技術	患者誤認防止、転倒・転落防止、薬剤・放射線暴露の防止	講義
12	/	環境調整技術	病床環境調整	演習
13	/	環境調整技術		演習
14	/	学習支援	学習支援の基礎知識、技術、実際	講義
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:		身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅱ (感染防止の技術と活動休息、安楽)			担当教員	専任教員
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	関連する看護技術の科学的根拠を学び、共通基本技術の意義に基づいた方法を習得する。
目標	1. 医療関係者に求められる感染防止対策の基礎知識を正しく実践できる技術を理解し、活用できる。 2. 姿勢とさまざまな体位、睡眠と睡眠障害の基礎知識とその具体的援助が理解できる。 3. 体位保持の意義と電法の種類、苦痛の緩和の具体的援助が理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	感染防止の技術	感染とその予防の基礎知識 標準予防策(スタンダードプリコーション) 感染経路別予防策	講義
2	/	感染防止の技術	衛生的な手洗い 個人防護用具(PPE)	演習
3	/	感染防止の技術	洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	講義
4	/	感染防止の技術	無菌操作、滅菌手袋・ガウンの着用	演習
5	/	感染防止の技術	針刺し防止 医療施設における感染管理	講義
6	/	活動・休息援助技術	基本的活動の援助 よい姿勢、ボディメカニクス、体位	講義
7	/	活動・休息援助技術	移動 体位変換	演習
8	/	活動・休息援助技術	移動 歩行・移乗・移送	講義
9	/	活動・休息援助技術	移乗・移送の基本と援助技術(車椅子・ストレッチャー)	演習
10	/	活動・休息援助技術	睡眠・休息の援助	講義
11	/	苦痛の緩和・安全確保の技術	体位保持(ポジショニング)	演習
12	/	苦痛の緩和・安全確保の技術	電法	講義/演習
13	/	苦痛の緩和・安全確保の技術	身体ケアを通じてもたらされる安楽	講義
14	/	苦痛の緩和・安全確保の技術	身体ケアを通じてもたらされる安楽 熱布バックケア	演習
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。			
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)			
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅲ (食事と排泄)			担当教員	専任教員
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	関連する看護技術の科学的根拠を学び、共通基本技術の意義に基づいた方法を習得する。
目標	1. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法と食事介助の具体的な援助方法が理解できる。 2. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法と具体的な援助方法が理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	食事援助技術	食事援助の基礎知識 人間にとっての食事の意義 栄養状態のアセスメント	講義
2	/	食事援助技術	医療施設の食事の特徴と援助の方法	講義
3	/	食事援助技術	食事摂取の介助	講義
4	/	食事援助技術	摂食・嚥下訓練 口腔ケア	講義
5	/	食事援助技術	非経口的栄養摂取の援助一経管栄養法、中心静脈栄養法 食事介助の具体的援助 口腔ケアの実践	演習
6	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の基礎知識	講義
7	/	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の介助の実践	講義
8	/	排泄援助技術	導尿 一時的導尿・持続的導尿	講義
9	/	排泄援助技術	排便を促す援助 浣腸(グリセリン浣腸)・摘便・ストーマケア	講義
10	/	排泄援助技術	トイレ・ポータブルトイレ・床上排泄(便器・尿器介助)	演習
11	/	排泄援助技術	導尿・排便を促す援助	演習
12	/	排泄援助技術	おむつ交換・陰部洗浄	演習
13	/	排泄援助技術		演習
14	/	排泄援助技術		演習
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。			
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)			
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅳ (清潔・衣生活と創傷管理)			担当教員	専任教員
開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	関連する看護技術の科学的根拠を学び、共通基本技術の意義に基づいた方法を習得する。
目標	1. 人間にとって基本的な欲求の一つである身体の清潔保持を多義的に理解し、患者が快適に過ごせる清潔援助が習得できる。 2. 創傷とそのメカニズム、包帯法の基礎と具体的な援助が理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の基礎知識	講義
2	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 手浴、足浴	演習
3	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 洗髪	演習
4	/	清潔・衣生活援助技術		演習
5	/	清潔・衣生活援助技術	病床の衣生活の援助の基礎知識、援助の実際	講義
6	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 全身清拭と寝衣交換(デモンストレーション)	演習
7	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 全身清拭と寝衣交換	演習
8	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 全身清拭と寝衣交換	演習
9	/	清潔・衣生活援助技術	清潔の援助の実際 全身清拭と寝衣交換	演習
10	/	創傷管理技術	創傷管理の基礎知識	講義
11	/	創傷管理技術	創傷処置 術後一次縫合創とドレーン創の処置、創洗浄・保護 テープによる皮膚障害	演習
12	/	創傷管理技術	創傷管理技術	演習
13	/	創傷管理技術	創傷処置 包帯法	講義/演習
14	/	創傷管理技術	褥瘡予防	講義/演習
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:		身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。		
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅴ (与薬・診察・検査・処置の技術)			担当教員	専任教員
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1単位／30時間

目的	関連する看護技術の科学的根拠を学び、共通基本技術の意義に基づいた方法を習得する。
目標	1. 正しい薬物の与薬・管理方法および輸血管理の基礎知識と援助の自裁が理解できる。 2. 呼吸・循環を整える技術において、その目的と方法および具体的な援助が理解できる。 3. 検体検査・生体機能管理技術と、検査時の看護の役割が理解できる。 4. 診察・穿刺の介助の目的、生体検査時の看護とその解除の実践が理解できる。 5. 死にゆく人と家族の心理を理解し、どのようなケアが必要かを理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	
1	/	与薬の技術	与薬の基礎知識 経口与薬法 ・援助の基礎知識 ・援助の実践	講義
2	/	与薬の技術	非経口与薬法 ・吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬	講義
3	/	与薬の技術	注射 ・注射の基礎知識 ・注射の実施法(静脈内、皮内、皮下、筋肉内)	講義
4	/	与薬の技術	注射 ・注射の基礎知識 ・注射の実施法(静脈内、皮内、皮下、筋肉内)	演習
5	/			演習
6	/	与薬の技術	検体検査の基礎知識 援助の実践	講義
7	/	与薬の技術	輸血管理 ・輸血の基礎知識 ・援助の実践	講義
8	/	症状・生体機能管理技術	検体検査の基礎知識 援助の実践 静脈血採血の技術	演習
9	/			演習
10	/	症状・生体機能管理技術 症状・生体機能管理技術Ⅱ 症状・生体機能管理技術Ⅲ	呼吸と循環を整える看護の実践 ・酸素療法 ・排痰ケア ・胸腔ドレナージ ・吸入	講義
11	/		呼吸と循環を整える看護 ①心電図モニター ②SpO ₂ ③人工呼吸療法	講義
12	/		呼吸と循環を整える看護 ④体温管理の技術 ⑤末梢循環促進ケア	講義
13	/	診察・検査・処置における技術	診察の介助 検査・処置の介助	講義
14	/	死の看取りの援助	死にゆく人と周囲の人々へのケア わが国の風習に根づく死後の処置のあり方 死後の処置	講義
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:		身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。		
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	看護過程			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	看護の目的を達成するために、看護過程のプロセスを理解する。
目標	1. 看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる。 2. 健康上の問題を明らかにし、問題を解決するための一連の過程が理解できる。 3. 模擬患者（紙上事例）に対して看護過程を展開できる。
評価方法	1.筆記試験（90％） 2.授業への参加態度・状況（10％）

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護過程とは	看護過程とは ①看護過程とは ②看護過程の意味
2	/	看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点
3	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング
4	/	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション
5	/	看護過程展開の各段階	①アセスメント（情報の収集と分析） ②看護問題の明確化（看護診断）
6	/	看護過程展開の各段階	③看護計画 ④実施
7	/	看護過程展開の各段階	⑤評価
8	/	看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点
9	/	看護記録	③看護記録の構成
10	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	①看護過程ってなに ②ヘンダーソンが考える看護 ③ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の学び方
11	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	④ヘンダーソンの考えに基づいて看護過程を使ってみよう ⑤基本的看護の充足した状態および情報収集
12	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
13	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
14	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」（医学書院） 秋葉公子他「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際」（ヌーヴェルヒロカワ） 江崎フサ子他「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」（ヌーヴェルヒロカワ）	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	臨床看護学総論			担当教員	外部講師
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1単位／30時間

目的	健康上のニーズに着目し、健康状態の経過に基づく看護や症状に対する看護の基本原則について学ぶ。
目標	基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する。
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
2	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
3	/	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ
4	/	健康状態の経過に基づく看護	健康状態と看護 健康の維持・増進を目指す看護
5	/	健康状態の経過に基づく看護	急性期における看護 慢性期における看護
6	/	健康状態の経過に基づく看護	リハビリテーション期における看護 終末期における看護
7	/	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護
8	/	主要な症状を示す対象者への看護	循環に関連する症状を示す対象者への看護
9	/	主要な症状を示す対象者への看護	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 排泄に関連する症状を示す対象者への看護
10	/	主要な症状を示す対象者への看護	活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護
11	/	主要な症状を示す対象者への看護	コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 安楽に関連する症状を示す対象者への看護
12	/	治療・処置を受ける対象者への看護	輸液療法を受ける対象者への看護 化学療法を受ける対象者への看護 放射線療法を受ける対象者への看護
13	/	治療・処置を受ける対象者への看護	手術療法を受ける対象者への看護 集中治療を受ける対象者への看護
14	/	治療・処置を受ける対象者への看護	創傷処置／創傷ケアを受ける対象者への看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		香春知永他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論」(医学書院) 北里大学病院看護部編「ナースポケットマニュアル」(医学書院)	
参考文献:		参考となる文献は、授業内で適宜提示する。	

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅰ			担当教員	専任教員
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	基礎看護学実習Ⅰ－1の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容を確認し、活用できるようにする。
目標	1. 療養者を取り巻く環境・看護師の役割や業務内容を理解する。 2. シミュレーションを通して学習したコミュニケーション技術を利用できる。
評価方法	1.筆記試験(80%) 2.技術試験(20%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	基礎看護学実習Ⅰ－1に向けて、看護学概論および基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を再確認する 〈事前学習課題の提示〉
2	/	シミュレーション学習①	グループワーク:ロールプレイ学習・演習①
3	/	シミュレーション学習	グループワーク:ロールプレイ学習・演習②
4	/	シミュレーション学習	グループワーク:ロールプレイ学習・演習③
5	/	シミュレーション技術①	演習計画書作成 〈演習課題〉患者訪室時～援助の説明～退室までのコミュニケーション
6	/	シミュレーション技術②	技術演習 〈演習課題〉患者訪室時～援助の説明～退室までのコミュニケーション
7	/	シミュレーション技術③	技術試験/リフレクション 演習を振り返り、基礎看護学実習Ⅰ－1における自己の課題を明確にする
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:		身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。	
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅱ			担当教員	夏堀 のぞみ
開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	基礎看護学実習Ⅰ-2の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容や看護技術を確認し、対象者に実施できるように学習する。
目標	1. フィジカルアセスメントができるようになる。 2. 日常生活援助の基本的な技術を模擬患者に対して安全安楽に実践できる。 3. 自身の技術不足を明確にし、振り返りができる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	ガイダンス	①シミュレーション学習の目的・目標を理解する。 ②失敗が許される学習環境下で安全な看護を提供する意味について説明する。
2	/	シミュレーション学習	事例① 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
3	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
4	/	シミュレーション学習	事例② 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。
5	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。
6	/	グループワーク	事例①、事例②に対して実施した内容から自己のスキルについて振り返りをする。
7	/	全体のまとめ	基礎看護学実習Ⅰ-2に向け、どのような姿勢で臨むかを皆でグループワークし、発表する。
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	シミュレーション技術Ⅲ			担当教員	専任教員
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	基礎看護学実習Ⅱの実習に向けて、看護過程を確認し、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を高めるように学習する。
目標	1. ペーパーペイシェントの情報収集・アセスメントができる。 2. 根拠に基づいた援助計画が立案でき、安全・安楽に配慮した援助が実践できる。 3. 実践した援助内容についてリフレクションができ、基礎看護学実習Ⅱに向けて主体的な学習ができる。
評価方法	1.筆記試験(80%) 2.授業への参加態度・状況(20%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	シミュレーション技術Ⅲのガイダンス	①基礎看護学実習Ⅱに向け、シミュレーション学習の意味を説明 ②ペーパーペイシェント提示
2	/	情報収集 アセスメント	グループワーク ①過不足な情報収集を考える ②情報を整理しアセスメントを行う
3	/	問題点の抽出	グループワーク: アセスメント内容から問題点を見出す
4	/	援助計画の立案	グループワーク:個別性に配慮した援助計画を立案する
5	/	援助の実施①	援助計画に基づく援助の実施
6	/	援助の実施②	援助計画に基づく援助の実施
7	/	援助計画評価 (技術試験)	リフレクション ①グループでの援助計画を振り返り、計画の追加・修正を行う ②基礎看護学実習Ⅱに向け、不足している学習を補足する
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	身だしなみが整っていない場合は、演習への参加は認めないので注意すること。		
使用テキスト:	有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		
備考:			

専門分野

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ（Ⅰ-1、Ⅰ-2）			担当教員	専任教員
開講時期	1 年次 前期・後期	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	1 単位／45 時間

目的	看護の対象と療養生活の場を理解し、学内で学んだ知識技術を用いて日常生活援助を実施し、基礎的知識・技術・態度を習得する。また、医療チームの職種と役割、連携について学ぶ。
目標	1. 看護の対象と、対象を取り巻く環境が理解できる。 2. 看護活動の場における看護の役割および医療チームの役割が理解できる。 3. 対象の日常生活への援助について理解できる。 4. 看護師として必要な態度が理解できる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 関連施設を見学し、看護の対象の療養の場としての環境を知る。 2. 看護の対象への援助をとらして日常生活環境への援助を理解できる。 3. 見学や実践をとらして看護師の役割を理解できる。 1) 病院の構造、機能 2) 病棟の構造、機能、組織 3) 医療チームメンバーの職種と役割、連携 4) 対象の環境と療養生活 5) 看護師の役割 6) 対象の日常生活への援助 7) 看護師として必要な態度 基礎看護学実習Ⅰ-1【見学実習】(15 時間) 基礎看護学実習Ⅰ-2【看護援助実習】(30 時間)
履修者へのコメント	1. 実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします 2. 臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう 3. 元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう
使用テキスト	茂野香おる「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論」（医学書院） 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」（医学書院） 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」（医学書院）
備考	

専門分野

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当教員	専任教員
開講時期	2 年次前期	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	受け持ち患者に看護過程を活用し、科学的根拠に基づいた日常生活援助を実践し、看護の実践に必要な基礎的臨床判断能力を養う。
目標	1. 受け持ち患者の基本的欲求の状態が把握できる。 2. 受け持ち患者の基本的欲求について必要な援助を明らかにできる。 3. 援助の計画をたてることができる。 4. 計画に基づき、日常生活行動への援助ができる。 5. 実施した援助について評価できる。 6. 看護過程の展開において臨床判断能力の必要性が理解できる。 7. 看護師とし必要な態度を意識して行動できる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 看護過程の展開 ・情報収集 ・アセスメント ・計画立案 ・実施 ・評価 2. 看護記録類の記入 3. 保健医療チームとの連携 4. 看護師の必要な態度 【臨地実習】(70 時間) 【学内】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします。 2. 臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう。 3. 元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう。
使用テキスト	茂野香おる「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護概論Ⅰ			担当教員	外部講師
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	地域で療養、又は、障害を持ちながら生活をする人々とその家族の特徴を理解し、地域における看護活動のあり方と役割、機能について学び、また、保健・医療・福祉と連携した看護活動について学ぶ。
目標	1. 地域における看護の機能と役割について理解する 2. 在宅ケアにおけるチームケアの重要性と看護職の役割を理解する。 3. 在宅看護に関わる法律・制度を理解する。 4. 在宅ケア、在宅看護、多職種との連携の重要性を理解する。
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	地域のなかでの暮らしと健康・看護	働くこと・学ぶことと暮らし 高齢者のいる暮らし 出産・育児と暮らし
2	/	人々の暮らしと地域・在宅看護	人々の暮らしの理解 地域・在宅看護の役割
3	/	暮らしの基盤としての地域の理解	暮らしと地域 暮らしと地域を理解するための考え方 地域包括ケアシステムと地域共生社会
4	/	地域・在宅看護の対象	地域・在宅看護の対象者 家族の理解
5	/	地域・在宅看護の対象	地域に暮らす対象者の理解と看護
6	/	地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を整える看護 広がる看護の対象と提供方法
7	/	地域における暮らしを支える看護	地域における家族への看護 地域におけるライフステージに応じた看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ			担当教員	小林 幸子
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	暮らしの場で行われる医療処置とその管理、日常生活に必要な看護について科学的根拠に基づいて事例展開を行ない、在宅看護の臨床判断能力を養う。
目標	1. 訪問看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅における療養上のリスクについて理解する。 3. 事例に沿った看護過程を展開する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	地域・在宅看護実践の場と連携	さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし おもな地域・在宅看護実践の場 1 住まいで提供される看護 2 通所サービスの場で提供される看護 3 短期入所サービスの場で提供される看護
2	/	地域・在宅看護実践の場と連携	おもな地域・在宅看護実践の場 4 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護 5 施設サービスの場で提供される看護 6 医療機関で提供される看護 7 地域のなかで提供される看護
3	/	地域・在宅看護実践の場と連携	地域・在宅看護における多職種連携 1 医療専門職との連携 2 福祉専門職との連携 3 介護支援専門員(ケアマネジャー)との連携 4 多職種連携からのネットワークづくり
4	/	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 訪問看護の制度
5	/	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	地域保健にかかわる法制度 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関連する制度
6	/	在宅看護過程の展開	紙上事例を用いて看護過程の展開をする。
7	/	在宅看護過程の展開	紙上事例を用いて看護過程の展開をする。
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	コミュニティケア			担当教員	神田 直孝 ・ 大田 真紀子
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	地域で生活する人々とその家族について理解し、地域で取り組んでいる活動と看護について学ぶ
目標	1. 家族看護とは何かを理解できる。 2. 家族看護の特徴を理解できる。 3. 家族を支えるコミュニティのフォーマル・インフォーマルな資源を知る。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	家族看護とは	家族看護の特徴と理念	神田
2	/	家族看護とは	家族看護の実践の場面	神田
3	/	家族看護の対象理解	家族とは 家族構造	神田
4	/	家族看護の対象理解	家族機能 ①家族の育児機能 ②家族のセルフケア機能	神田
5	/	家族看護の対象理解	現代の家族とその課題 ①現代家族の様相 ②現代家族の課題	神田
6	/	家族看護を支える理論と介入法	家族を理解するための理論 家族の変化を把握するための理論	神田
7	/	家族看護を支える理論と介入法	家族に変化をもたらすための介入 ①家族療法 ②家族を支える介入	神田
8	/	家族看護展開の方法	家族看護過程とは 家族看護の実践 ①情報収集 ②家族アセスメント ③家族の看護問題の明確化 ④家族看護計画の立案	太田
9	/	家族看護展開の方法	家族看護の実践 ④家族看護計画の立案 ⑤家族看護の実施 ⑥家族看護実践の評価 ⑦家族看護と他職種連携	太田
10	/	家族看護展開の方法	さまざまな家族アセスメントモデル ①フリードマンとハンソンのアセスメントモデル ②鈴木のアセスメントモデル	太田
11	/	事例からみえる地域包括ケア	急性期患者/慢性期小児患者/終末期患者/先天奇形をもつ児 精神疾患患者/高齢の患者/周産期 地域のなかで、家族まるごとを継続的にみるとは	太田
12	/	事例からみえる地域包括ケア	退院後、望む療養生活のために必要なもの	太田
13	/	地域をつなぎ、ささえる居場所	人をつなぐ地域包括ケアの入り口「暮らしの保健室」 自分で考え、決める力を取り戻せるサポート	太田
14	/	地域包括ケアのささえ	住み慣れた場所で最期まで暮らす	太田
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		上別府圭子他「系統看護学講座 別巻 家族看護学」(医学書院)		
参考文献:		秋山 正子「つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア」(医学書院) 必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	療養者の看護			担当教員	夏堀 のぞみ
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	さまざまな疾病で療養する対象者の医療処置とその管理、および看護についての知識を深める。
目標	在宅で療養する対象者の事例展開を通し、看護師の役割を理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	地域・在宅看護の実践	療養者と家族の思いから始まる看護 さまざまな人たちが力を合わせる看護 長期的なかかわりが必要になる看護	國井
2	/	地域・在宅看護の展開	地域・在宅看護における看護過程 地域・在宅看護過程の展開方法	國井
3	/	地域・在宅における時期別の看護	健康な時期の看護 外来受診期における看護	國井
4	/	地域・在宅における時期別の看護	入院時の看護 在宅療養準備期(退院前)の看護	國井
5	/	地域・在宅における時期別の看護	在宅療養移行期の看護 在宅療養安定期の看護	國井
6	/	地域・在宅における時期別の看護	急性期増悪期の看護 終末期の看護(グリーフケアを含む) 在宅療養終了期の看護	國井
7	/	地域・在宅看護の事例展開	事例を学ぶにあたって 医療的ケア児の事例展開	國井
8	/	地域・在宅看護の事例展開	脳卒中の療養者	國井
9	/	地域・在宅看護の事例展開	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者	松森
10	/	地域・在宅看護の事例展開	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者	松森
11	/	地域・在宅看護の事例展開	パーキンソン病の療養者	松森
12	/	地域・在宅看護の事例展開	統合失調症の療養者	松森
13	/	地域・在宅看護の事例展開	認知症高齢者	松森
14	/	地域・在宅看護の事例展開	がん終末期の療養者 看取りの支援／終末期前期(初期)～ 終末期後期(終末期・臨死期)の看護	松森
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	在宅看護技術			担当教員	夏堀 のぞみ
開講時期	2年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	在宅における療養者の日常生活に必要な看護技術について科学的根拠に基づいて学ぶ。 在宅における医療処置および管理を必要とする対象について基礎的な方法を学ぶ。
目標	1. 在宅療養者と家族を対象とした必要な看護の実践を理解する。 2. 在宅における具体的な援助技術を習得する。 3. 在宅における医療管理を必要とする人の看護を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	暮らしを支える看護技術	暮らしの場で看護をするための心構え セルフケアを支える対話・コミュニケーション
2	/	暮らしを支える看護技術	地域・在宅看護における家族を支える看護 地域・在宅看護における安全をまもる看護
3	/	暮らしを支える看護技術	地域における暮らしを支える看護実践 1 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 2 活動・休息に関する地域・在宅看護技術
4	/	暮らしを支える看護技術	地域における暮らしを支える看護実践 3 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 4 排泄に関する地域・在宅看護技術
5	/	暮らしを支える看護技術	地域における暮らしを支える看護実践 5 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 6 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術
6	/	暮らしを支える看護技術	地域における暮らしを支える看護実践 7 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術
7	/	暮らしを支える看護技術	地域における暮らしを支える看護実践 8 創傷管理に関する地域・在宅看護技術 9 与薬に関する地域・在宅看護技術
8	/	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働	地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働 医療・福祉・介護関係者との連携・協働
9	/	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの	医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働
10	/	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの	地域共生社会を実現するために
11	/	地域・在宅看護マネジメント	地域・在宅看護マネジメントとは
12	/	地域・在宅看護マネジメント	多様な場における地域・在宅看護マネジメント
13	/	地域・在宅看護活動の創造と展開例	地域・在宅看護活動の創造 「暮らしの保健室」の例
14	/	地域・在宅看護活動の創造と展開例	さまざまな地域・在宅看護活動の展開例 地域・在宅看護活動の創造のための考え方
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	在宅シミュレーション技術			担当教員	外部講師
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	療養者に必要な在宅看護が実践できる基本的な能力を養う。また、看護師の役割、態度を学ぶ。
目標	1. 訪問シミュレーション学習をふまえて在宅看護過程が理解できる。 2. 在宅訪問時のマナーおよび面接技術がわかる。 3. 訪問看護の基本的マナーをふまえた初回訪問が実施できる。
評価方法	1.筆記試験(70%) 2.課題・レポート(30%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	講義	1) 在宅訪問時の心構え・身だしなみ・態度及び行動 2) 訪問看護倫理要綱 3) シミュレーション演習の説明
2	/	講義	初回訪問時のマナー ～療養者・家族との信頼構築を築くために～ 住環境のアセスメントの視点
3	/	講義	在宅看護過程の考え方
4	/	演習	訪問看護ステーション設置 管理、規定に基づいたステーション作成
5	/	演習	
6	/	演習	事例より 初回訪問の実施
7	/	講義	訪問看護の変遷
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院) 河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護論 実習 I			担当教員	専任教員
開講時期	1 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	1 単位／45 時間

目的	地域で生活している人々と家族について、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように援助するための基礎的な能力を養う。
目標	1. 地域で生活している人々の健康増進・疾病の予防に関わる地域包括支援システムを理解する。 2. 社会資源の種類と活用状況について理解する。 3. 地域で生活する健康な高齢者とコミュニケーションをおこない、発達段階と課題及び健康を維持・促進への方法を理解する。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【臨地実習】(40 時間) 1.訪問看護ステーション(10 時間) 2.小規模多機能型施設/療養通所介護施設/訪問診療/訪問入浴/居宅介護支援事業所 地域包括支援センター/訪問介護/サービス付高齢者住宅/有料老人ホーム/障害者施設 (内 3 ヶ所 計 30 時間) 【学内実習】(5 時間)
履修者へのコメント	
使用テキスト	河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院) 河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	地域・在宅看護論 実習Ⅱ			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	地域での看護活動を通して、保健医療福祉に携わる人々の相互の連携と看護の役割と責任について学ぶ。
目標	1. 地域で生活しながら療養する人々と家族の健康状態、生活状況について理解できる。 2. 本人・家族の状況に応じた日常生活援助、診療の補助基本について理解できる。 3. 他職種・関係機関との連携や社会資源の活用方法を実際の場で理解できる。 4. 療養生活支援のために他職種との協働する看護師の役割が理解できる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【臨地実習】(70 時間) 【訪問看護実習】 1. 在宅で生活する療養者とその家族について、在宅看護の機能と役割の実際を理解できる。 2. 在宅で生活する療養者とその家族に配慮した行動がとれる。 3. 在宅看護に必要な保健医療福祉チームについて理解できる。 4. 社会資源の種類及び活用状況について理解できる。 5. 訪問看護ステーションの管理・運営・活動について理解できる。 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 地域・在宅看護概論Ⅰ・療養者の看護・在宅看護技術
使用テキスト	河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤」(医学書院) 河原加代子他「系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	成人看護学概論			担当教員	夏堀 のぞみ
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	成人看護学の対象である成人各期の発達段階とその特徴を理解し、健康の保持増進・疾病予防について学ぶ。
目標	1. 成人期にある対象の特徴が理解できる。 2. 生活環境や社会状況をふまえ、成人期にある対象の健康を守り育む保健・医療・福祉システムが理解できる。 3. 成人期にある対象への看護アプローチの基本が理解できる。
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	成人と生活	対象の理解 ー 大人になること、大人であること
2	/		対象の生活 ー 働いて生活を営むこと
3	/	生活と健康	成人を取り巻く環境と生活からみた健康 生活と健康をまもりはぐくむシステム
4	/	成人への看護アプローチの基本	生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 症状マネジメント 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係
5	/	成人への看護アプローチの基本	人々の集団における調和や変化を促すアプローチ チームアプローチ 看護におけるマネジメント
6	/	成人への看護アプローチの基本	看護実践における倫理的判断 意思決定支援 家族支援
7	/	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションと看護 ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
8	/	健康をおびやかす要因と看護	健康バランスの構成要素 影響を及ぼす要因 生活行動がもたらす健康問題とその予防
9	/		
10	/	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	健康の急激な破綻 急性期にある人の看護
11	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	慢性病とともに生きる人を理解する 慢性病とともに生きる人を支える
12	/	障害がある人の生活とリハビリテーション	障害がある人とリハビリテーション 障害がある人とその生活を支援する看護
13	/	人生の最期のときを支える看護	人生の最期のときにおける医療の現状 人生の最期のときを過ごしている人の理解 支える看護
14	/	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	移行支援の基礎知識 継続的な移行を支える支援の実践
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		小松浩子他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ (セルフマネジメント)			担当教員	佐々木 順承
開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	生涯にわたり長期的なコントロールを必要とする対象者・家族の特徴を知り、その人らしい健康生活を維持するための看護の方法を学ぶ。看護を長期的な疾病・障害を持ちながら生活する成人期の対象と家族への
目標	1. 慢性疾患を有する患者および家族の特徴を理解する。 2. その人らしい健康生活を維持するための看護の方法を習得する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	慢性病とともに生きる人を理解する 慢性病とともに生きる人を支える
2	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	慢性疾患を有する人の身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴 慢性疾患を有する人を支える家族の特徴
3	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	治療・療養行動にかかわる主な理論・概念 治療・療養を促進する支援 社会資源の活用
4	/	慢性疾患の主な治療方法と治療を受ける患者の看護①	インスリン療法・人工透析・ペースメーカー装着・ステロイド療法
5	/	慢性疾患の主な治療方法と治療を受ける患者の看護②	化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植・内分泌療法・肝動脈塞栓療法
6	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護①	呼吸器系＜気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がん＞
7	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護②	循環器系＜高血圧、不整脈、虚血性心疾患、慢性心不全＞
8	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護③	消化器系＜胃・十二指腸潰瘍、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、潰瘍性大腸炎、クローン病＞
9	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護④	代謝・内分泌系＜糖尿病、脂質異常症、甲状腺機能障害（亢進症・低下症） 腎・泌尿器系＜慢性腎不全、前立腺がん＞
10	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護⑤	血液・免疫系＜再生不良性貧血、白血病、HIV 感染症、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス＞
11	/	慢性疾患を有する人とその家族への看護⑥	脳・神経系＜脳梗塞、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症＞ 感覚器系＜視覚障害、突発性難聴＞
12	/	看護事例展開①	(2型糖尿病) 患者紹介・情報の整理とアセスメント
13	/	看護事例展開②	(2型糖尿病) 関連図と問題リストの作成
14	/	看護事例展開③	看護計画立案
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト: 小松浩子他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論」(医学書院) 浅野嘉延編「看護のための臨床病態学 改訂4版」(南山堂)			
参考文献: 必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ (健康危機状況時の看護)			担当教員	古川 弘美
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	急激な健康レベルの低下や生命の危機状態にある対象の治療や手術療法を学ぶ。 対象者の身体的・心理的・社会的課題を明確にし、科学的思考に基づいた看護臨床判断能力を養う。
目標	1. 健康状態が急激に変化する患者、生命の危機状態に在る患者の身体的・心理的・社会的課題を理解し、科学的根拠に基づいた看護援助の必要性がわかる。 2. 外科の治療を受ける患者の特徴と理解を深め、看護師の果たすべき役割を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	今日の外科看護の特徴と課題 外科医療の基礎	外科看護の対象と目的 外科看護の役割と課題 外科看護の流れ 外科治療の特徴と変遷 手術侵襲と生体の反応 炎症 感染症 創傷治癒
2	/	周術期看護の概論	手術を受ける患者の状況 チーム医療と看護師の役割 インフォームドコンセント 周術期における安全管理 院内感染予防
3	/	手術前患者の看護	外来診療の変化に対応した外来看護師の役割 外来における手術前の患者の看護 手術前の具体的援助
4	/	手術中患者の看護	手術中の看護の要点 手術室における看護の展開 手術室の環境管理
5	/	手術後患者の看護	手術後の回復を促進するための看護 術後合併症の発生機序
6	/	手術後患者の看護	おこりやすい術後合併症の予防と発症時の対応 形態変化や機能障害に対する適応への援助
7	/	肺および胸部	肺・胸部の疾患 肺・胸部疾患患者の看護
8	/	心臓および脈管系	心臓脈管系の疾患 心臓・脈管系疾患患者の看護
9	/	消化器および腹部	消化器・腹部の疾患 消化器・腹部疾患患者の看護
10	/	脳および神経	脳・神経の疾患 脳・神経疾患患者の看護
11	/	頭部および頸部の疾患	頭部・頸部の疾患 頭部・頸部疾患患者の看護
12	/	看護事例展開①	事例紹介
13	/	看護事例展開②	問題リスト・看護計画
14	/	看護事例展開③	発表
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 北島政樹編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ (危機状況からの回復に向けての看護)			担当教員	佐々木 順承
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	自身の健康をセルフケアすることが困難な危機的状況に焦点を当て、一人ひとりの「健康観」「健康感」に沿う看護について学習する。また、セルフケアが低下した状態にある生活者としての個人の回復に向けた支援について、生活できる力を獲得するための看護の方法を学ぶ。
目標	1. 健康危機状況にある成人への看護方法について身体的・心理的・社会的課題を理解し、科学的根拠に基づいた看護援助の必要性がわかる。 2. セルフケアの低下した成人とその看護の特徴を示すセルフケアについて理解し、セルフケア再獲得を必要とする成人への看護について理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	救急看護の概念	救急看護とは 救急医療体制 救急看護の場 救急看護と法的・倫理的側面
2	/	救急看護の対象の理解	救急患者の特徴 救急患者家族の特徴
3	/	救急時に使用される医薬品	救急時の医薬品使用時の注意点 救急時に使用するおこな薬品
4	/	外科治療を要する疾患・症状	外科治療の適応 腫瘍 外傷・熱傷とショック
5	/	外科治療を支える分野	麻酔法 呼吸管理 体液管理 栄養管理 輸血療法 緩和医療
6	/	外科治療の実際	外科的基本手技 低侵襲手術 臓器移植
7	/	救急看護の実際	救急処置法の実際 救急看護の実際
8	/	集中治療を受ける患者の看護	集中治療の概念と看護の役割 集中治療室(ICU) 集中治療室における看護の実際
9	/	事例で考える救急看護① ＜心筋梗塞＞	＜心筋梗塞＞ 病態関連図から全体像をつかむ 問題リストの作成
10	/	事例で考える救急看護② ＜心筋梗塞＞	＜CCU 入院から PTCA 施行＞ 優先順位に合わせた看護計画の立案する
11	/	事例で考える救急看護③ ＜心筋梗塞＞	＜急性期から回復期へ＞ 情報の整理 再アセスメントと問題リストの作成
12	/	事例で考える救急看護④ ＜心筋梗塞＞	＜回復期の看護展開＞ 看護目標と看護計画の立案
13	/	事例で考える救急看護⑤ ＜心筋梗塞＞	心臓リハビリテーションと看護の要点
14	/	事例で考える救急看護⑥ ＜心筋梗塞＞	退院に向けての患者・家族への学習支援
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」(医学書院) 北島政樹編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院) 山勢博彰編「系統看護学講座 別巻 救急看護学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ (セルフケア再獲得に向けての看護)			担当教員	風間 昌子
開講時期	2年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	自身の健康をセルフケアすることが困難な危機的状況に焦点を当て、一人ひとりの「健康観」「健康感」に沿う看護について学習する。セルフケアの再獲得では、セルフケアが低下した状態にある生活者としての個人の回復に向けた支援について、リハビリテーション看護の視点も踏まえて学習する。
目標	1. 健康回復に必要な看護を実践するための方法を理解する。 2. 回復期にある対象の特徴やその看護の特徴を示すセルフケアについて理解し、セルフケア再獲得を必要とする成人への看護について理解する。健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する。
評価方法	1.筆記試験(80%) 2.授業への参加態度・状況(20%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	リハビリテーション概論	リハビリテーションの定義と理念 リハビリテーションの対象と制度
2	/	リハビリテーション概論	疾病・障害・生活機能の分類 リハビリテーションの分野 リハビリテーション医療の提供
3	/	リハビリテーション看護概論	リハビリテーション看護の定義と専門化 看護の対象 看護の方法
4	/	運動器系の障害とリハビリテーション看護	総論 骨折 関節リウマチ
5	/	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	脳血管障害 障害の動向 リハビリテーションプログラム
6	/	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	パーキンソン病 疾患の動向 リハビリテーションプログラム
7	/	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護	脊髄損傷 脊髄損傷の動向 リハビリテーションプログラム
8	/	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護	慢性閉塞性肺疾患 COPD の動向 リハビリテーションプログラム
9	/	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション看護	虚血性心疾患 疾患の動向 リハビリテーションプログラム
10	/	感覚器系の障害とリハビリテーション看護	視覚障害 障害の動向 リハビリテーションプログラム
11	/	感覚器系の障害とリハビリテーション看護	聴覚障害 障害の動向 リハビリテーションプログラム
12	/	看護事例展開①	患者紹介・情報の整理とアセスメント
13	/	看護事例展開②	関連図と問題リストの作成
14	/	看護事例展開③	看護計画立案
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		武田宣子編「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ (緩和ケアの看護)			担当教員	佐藤 有岐
開講時期	2年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	人生の最期の時を迎える対象者や家族が苦痛や苦悩を知り、尊厳ある人間的生命を完結するための支える看護について学ぶ。授業を通して自らの死生観を考える。
目標	終末期を迎える対象者のQOLを充実するために必要な心理的援助や緩和ケアについて理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	緩和ケアの現状と展望	緩和ケアの歴史と発展
2	/	緩和ケアにおけるチームアプローチ	緩和ケアにおけるチームアプローチの意義
3	/	緩和ケアにおけるコミュニケーション	コミュニケーションの基本的知識 看護師のコミュニケーションの意義 医療者の認識 スキルとプログラム 難しい場面でのコミュニケーション
4	/	緩和ケアにおける倫理的課題	生命倫理と看護倫理 意思決定支援 倫理的課題
5	/	全人的ケアの実践	身体的・心理的・社会的・スピリチュアルケア
6	/	緩和ケアの広がり	ライフサイクル・さまざまな疾患・療養の場
7	/	臨死期のケア	臨死期の概念とケアの目標
8	/	家族のケア	家族ケアのあり方 家族看護過程 家族ケアの方法 グリーフと遺族ケア
9	/	医療スタッフのケア 緩和ケアに関する教育	ストレスマネジメント マインドフルネス 基礎教育 継続教育
10	/	緩和ケアの実践	痛み、呼吸困難
11	/	緩和ケアの実践	悪心、嘔吐 消化器症状(消化管閉塞、腹水、便秘)
12	/	緩和ケアの実践	倦怠感・浮腫
13	/	緩和ケアの実践	精神症状(不安・うつ・せん妄)
14	/	死について語る	死にゆく人の著書やドキュメンタリー映像、身近な人の死の体験等を通して考えた自図からの死生観を考える
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		恒藤暁編「系統看護学講座 別巻 緩和ケア」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ			担当教員	専任教員
開講時期	2 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	1 単位／45 時間

目的	障害者施設を利用している人々とその家族の生活を理解し、障がいの受容、生活の再構築、セルフマネジメントに向けての基礎的な看護援助を学ぶ。
目標	1. 障害者支援施設利用者および家族の特徴が理解できる。 2. 障害者支援者および家族に起こりやすい問題・疾病や障がいが、対象・家族にもたらす心理的影響(心理状態)について知ることができる。 3. 障害者施設利用者が医療連携をとおして介護・医療サービスの活用を知ることができる。 4. 看護職(医療職)として支援対象者への人権意識を持ち、その必要性和姿勢を学ぶことができる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【社会福祉施設】(10 時間) 【国立リハビリテーションセンター】(8 時間) 【国立ハンセン病資料館 多磨全生園】(6 時間) 1. 障害者支援施設利用者および家族の特徴が理解できる。 2. 障害者支援者および家族に起こりやすい問題・疾病や障がいが、対象・家族にもたらす心理的影響(心理状態)について知ることができる。 3. 障害者施設利用者が医療連携を通じて介護・医療サービスの活用を知ることができる。 4. 看護職(医療職)として支援対象者への人権意識を持ち、その必要性和姿勢を学ぶことができる。 【福祉用具体験】(6 時間) 1. 障害者支援施設利用者および家族の特徴が理解できる。 3. 障害者施設利用者が医療連携を通じて介護・医療サービスの活用を知ることができる。 【学内実習】(15 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 成人看護学概論・成人看護方法論Ⅰ・成人看護方法論Ⅱ・成人看護方法論Ⅲ 成人看護方法論Ⅳ・成人看護方法論Ⅴ
使用テキスト	小松浩子他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護総論」(医学書院) 武田宣子他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	急性期にある対象を理解し、看護過程の展開を活用して対象に必要な援助が実践できる能力を養う。
目標	1. 急性期にある患者の身体的・社会的・精神的側面の特徴が理解できる。 2. 急性期にある患者の身体的・社会的・精神的側面の問題が理解できる。 3. 急性期の患者の状態を考慮し、患者の望ましい状態について理解できる。 4. 検査・治療・処置が良い状態で行えるよう、心身の準備への援助ができる。 5. 急性期における合併症を予測しながら援助ができる。 6. 急性期における患者・家族の不安および苦痛の配慮ができる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【急性期患者の看護】 急性期にある看護 〔検査・治療・処置・手術／後〕 1. 手術の適応となった病気、予測される合併症、手術によって変化するまたは、変化した機能が理解できる。 2. 手術を受けるまたは、受けた患者・家族の精神的・社会的状況が理解できる。 3. 安全に手術が受けられよう援助する。また手術後の回復を促進するような援助ができる。 4. 患者・家族が手術を受容できるように援助する。 手術を受けた患者・家族が、手術後の身体や社会における自己を受容できるよう援助する。 5. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、他のチームメンバーとの協力の必要性が理解できる。 6. 看護計画を立案し実践・評価できる。 〔検査・治療・処置・手術中〕 1. 手術室内での患者の状況が理解できる。 2. 手術見学を通し、患者に必要な術後の看護を理解する。 3. 生体機能の急激な変化と変化に至った経過、予測される合併症を理解する。 4. 生命の安全確保と身体的苦痛に対する援助をする。 5. 患者・家族のおかれている状況を理解する。 6. 回復を促進するよう援助する。 7. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解した行動がとれる。 8. 看護計画を立案し実践・評価する。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 成人看護学概論・成人看護方法論Ⅰ・成人看護方法論Ⅱ・成人看護方法論Ⅲ 成人看護方法論Ⅳ・成人看護方法論Ⅴ
使用テキスト	小松浩子他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護総論」(医学書院) 矢永勝彦編「系統看護学講座 別巻 臨床外科総論」(医学書院) 北島政樹編「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	成人看護学実習Ⅲ			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	機能障害をもつ患者を対象に障害受容、生活の再構築、セルフマネジメントに向けての援助を学ぶ。
目標	1. 機能障害をもつ患者・家族の特徴が理解できる。 2. 患者・家族に起こりやすい問題が理解できる。 3. 患者の状態を考慮し、望ましい状態について理解できる。 4. 障害された機能に応じた生活の再構築に向けての援助ができる。 5. 社会復帰・セルフマネジメントへの援助ができる。 6. 患者の安全・安楽に配慮できる。 7. 疾病や障害が患者・家族にもたらす不安・苦痛を受け止め、意思決定を尊重できる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【回復期の看護】 1. 患者の病気からくる変化が理解できる 2. 患者の病気以外からくる変化が理解できる 3. 患者・家族の心理的・社会的状況が理解できる 4. 患者が現在の状態を悪化させないように、また進行を穏やかにし、回復にむかうよう援助する 5. 能力を最大限に活用した病気および生活上の管理方法を修得し、継続できるよう患者・家族へ援助する 6. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解した行動がとれる 7. 看護計画を立案し実践・評価する 【慢性期の患者の看護】 1. 慢性的経過をたどる患者の病態と治療について関連付けてわかる 2. 成人期で慢性的経過をたどる患者・家族の身体的・精神的・社会的状況が理解できる。 4. 慢性の経過をたどる患者の生活を尊重し、セルフケア再獲得のための支援ができる。 5. 能力を最大限に活用した病気および生活上の管理方法を習得し、継続できるよう患者・家族へ援助する。 6. 保健医療チームにおける一員として看護師の役割を理解した行動がとれる。 7. 看護計画を立案し実施・評価する。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 成人看護学概論・成人看護方法論Ⅰ・成人看護方法論Ⅱ・成人看護方法論Ⅲ 成人看護方法論Ⅳ・成人看護方法論Ⅴ
使用テキスト	小松浩子他「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護総論」(医学書院) 武田宣子他「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	老年看護学概論			担当教員	渡部 孝子
開講時期	1年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	高齢社会にある我が国の現状について学び、老年期にある人々の健康問題と保健・医療・福祉の課題、老年看護の役割について学ぶ。また、ヘルスプロモーションの視点から、高齢者の暮らしぶりや健康への配慮の仕方、知識・技術を活かした社会への参加など高齢者の生き方の多様性やパワーについて学ぶ。
目標	1. 老年期を生きる人について理解する。 2. 加齢に伴う心身の変化と特徴を理解する。 3. 高齢社会を取り巻く社会と保健医療福祉制度を理解する。 4. 高齢者の人権と倫理問題について理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	老いるということ、 老いを生きるということ	老年看護を学ぶ入口 老いるということ
2	/	老いるということ、 老いを生きるということ	老いを生きるということ
3	/	超高齢社会と社会保障	高齢社会の統計的輪郭
4	/	超高齢社会と社会保障	高齢社会における保健医療福祉の動向
5	/	超高齢社会と社会保障	高齢者の権利擁護
6	/	老年看護のなりたち	老年看護のなりたち 老年看護の役割
7	/	老年看護のなりたち	老年看護における理論・概念の活用 老年看護に携わる者の責務
8	/	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本
9	/	高齢者のヘルスアセスメント	身体に加齢変化とアセスメント
10	/	高齢者の生活機能を整える看護	日常生活を支える基本的活動
11	/	高齢者の生活機能を整える看護	食事・食生活 排泄
12	/	高齢者の生活機能を整える看護	清潔 生活リズム
13	/	高齢者の生活機能を整える看護	コミュニケーション
14	/	高齢者の生活機能を整える看護	セクシュアリティ 社会参加
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		北川公子編「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	高齢者支援論			担当教員	引地 生美
開講時期	1 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	高齢者の特徴と、身体的機能や社会環境が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。 倫理的課題、看護職の役割について学ぶ。
目標	1. 高齢者に起こりやすい症状と看護を理解する。 2. 高齢者におけるエンドオブライフケアを理解し、看護師の役割を学ぶ。 3. 様々な療養看護における看護を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	健康逸脱からの回復を促す看護	症候のアセスメントと看護 身体疾患のある高齢者の看護
2	/	健康逸脱からの回復を促す看護	認知機能障害のある高齢者の看護
3	/	治療を必要とする高齢者の看護	検査を受ける高齢者の看護 薬物療法を受ける高齢者の看護
4	/	治療を必要とする高齢者の看護	手術を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護
5	/	エンドオブライフケア	エンドオブライフケアの概念 「生ききる」ことを支えるケア 意思決定への支援 末期段階に求められる援助
6	/	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設および居住施設における看護
7	/	生活・療養の場における看護	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 多職種連携実践による活動
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		北川公子編「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ			担当教員	上野真史 ・ 風間 昌子
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	高齢者に起こりやすい症状や生活機能障害、健康障害など、対象に応じた看護について科学的根拠に基づいた基礎的な臨床判断能力を学ぶ。
目標	1. 加齢に伴う機能の変化とその看護が理解できる 2. 高齢者の健康問題と看護について理解できる 3. 日常生活を支える基本的活動について理解できる 4. 高齢者の生活機能、生活・療養の場における看護について理解できる
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	高齢者のリスクマネジメント	高齢者と医療安全 高齢者と救命救急	上野
2	/	高齢者のリスクマネジメント	高齢者と災害	上野
3	/	老年症候群	老年症候群の特徴 おもに急性疾患に付随する症候	上野
4	/	老年症候群	おもに慢性疾患に付随する症候 おもにADL低下に合併する症候	上野
5	/	老年症候群	フレイル	上野
6	/	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	高齢者のフィジカルアセスメント バイタルサイン測定・身体測定 栄養評価 検査	上野
7	/	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	訪問場面での健康状態の把握 高齢者総合機能評価	上野
8	/	高齢者の疾患の特徴	認知症 精神・神経疾患	風間
9	/	高齢者の疾患の特徴	循環器系の疾患 呼吸器系の疾患	風間
10	/	高齢者の疾患の特徴	消化器系の疾患 内分泌・代謝系の疾患	風間
11	/	高齢者の疾患の特徴	自己免疫疾患 血液の疾患	風間
12	/	高齢者の疾患の特徴	腎・泌尿器系の疾患 運動器の疾患	風間
13	/	高齢者の疾患の特徴	皮膚の疾患 感覚器の疾患	風間
14	/	高齢者の疾患の特徴	歯・口腔の疾患 感染症	風間
15	/	試験	筆記試験	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		北川公子編「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院) 鳥羽研二編「系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ			担当教員	依田 茂樹
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	加齢に伴う機能変化、疾患による障害、特有の健康問題を理解し、対象に即した看護が展開できる基礎的知識・技術・態度を学ぶ
目標	1. 高齢者と薬剤の関わりが理解でき、看護援助がわかる 2. 高齢者におけるリハビリテーションの必要性が理解できる。 3. 事例を通して高齢者の特徴を踏まえた看護過程を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	「超高齢社会」における老年看護への期待	高齢者の定義 「超高齢社会」の到来
2	/	「超高齢社会」における老年看護への期待	高齢者医療の課題と重要性 老年看護への期待
3	/	高齢者の生理的特徴	「老化」とは 老化と寿命 認知・知覚機能の老化
4	/	高齢者の生理的特徴	呼吸・循環機能の老化 消化・吸収・代謝機能の老化
5	/	高齢者の生理的特徴	排泄機能の老化 免疫機能の老化
6	/	高齢者の生理的特徴	運動機能の老化 性機能の老化
7	/	高齢者と薬	高齢者の安全な薬物療法 高齢者で注意すべきおもな薬物
8	/	高齢者と薬	服薬管理能力のアセスメントと服薬支援
9	/	高齢者のリハビリテーション	高齢者におけるリハビリテーションとは 内部障害リハビリテーション
10	/	高齢者のリハビリテーション	肢体不自由リハビリテーション 廃用性疾患のリハビリテーション
11	/	高齢者のリハビリテーション	非薬物療法としてのリハビリテーション
12	/	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	高齢者の在宅医療の特性 認知症患者の在宅医療
13	/	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	人生の最終段階における入院医療と在宅医療の連携 高齢者医療におけるチーム医療の特性
14	/	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア	在宅医療とエンドオブライフケア 高齢者の在宅医療における訪問看護の役割
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		北川公子編「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院) 鳥羽研二編「系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ			担当教員	専任教員
開講時期	2 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	地域や施設における関わりを通して老年期の特徴を理解し、高齢者の持てる力を生かした看護を実践する基礎的な臨床判断能力を養う。
目標	1. 老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面からとらえることができる。 2. 高齢者生活を支える保健医療福祉の現状と役割及び連携の必要性について理解できる。 3. 地域社旗で生活する健康な高齢者のその人らしい姿が理解できる。 4. 施設で生活している高齢者に適した日常生活に必要な援助がわかる。 5. 高齢者の生活史や価値観・生きがいを理解し、尊重した態度がとれる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【介護老人保健施設】(30 時間) 1. 介護老人保健施設の概要を理解する。 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1 日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する。 3. 施設を見学し利用者に関わる。 4. 日常生活援助の見学と実施。 5. 入所者の健康管理の見学。 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる。 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学。 【介護老人福祉施設】(30 時間) 1. 介護老人福祉施設の概要を理解する。 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1 日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する。 3. 介護老人福祉施設を見学し利用者に関わる。 4. 日常生活援助の見学と実施。 5. 入所者の健康管理の見学。 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる。 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学。 【介護福祉用具展示】(5時間) 【学内実習】(25時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ
使用テキスト	北川公子他「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院) 鳥羽研二他「系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	健康障害を抱える高齢者を包括的に捉え、基本的な臨床判断能力を養うとともに、高齢者の生活の質の向上を目指した看護を実践することができる。
目標	1. 高齢者の健康障害の特徴を理解できる。 2. 高齢者の健康障害に対して起こる問題を把握し、対象者の生活の質の向上を目指した看護を実践できる。 3. 高齢者を取り巻く人々や環境を理解することができる。 4. 高齢者を支える保健・医療・福祉の役割および連携について理解できる。 5. 高齢者の看護を通して高齢者への尊重した態度がとれる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える。 2. 高齢者に必要な診断・治療、看護に関わる援助を理解し、実践する。 3. 保健医療福祉に携わる職種との協働・連携の場について学ぶ。 4. 高齢者とその支援をする人々との関わりを通して看護師の役割を理解し、行動できる。 5. 受け持ち患者の情報収集。 6. 受け持ち患者の看護 リハビリテーション、検査、処置の見学、実施。 7. 看護計画に基づく受け持ち患者の看護。 8. 生活指導・保健指導の見学。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ
使用テキスト	北川公子他「系統看護学講座 専門分野 老年看護学」(医学書院) 鳥羽研二他「系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	小児看護学概論			担当教員	永山 治美
開講時期	1年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1単位／15時間

目的	小児看護の変遷を学び、看護を必要とする対象の特徴について学ぶ。 小児の成長発達について学び、小児看護の理念・役割を理解する。
目標	1. 小児看護の変遷や小児の社会的現状から、小児看護の役割を理解する 2. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律、小児看護における倫理を理解する。 3. 子どもの成長・発達過程(形態・機能・心理・境的特徴)を理解する 4. 子どもの成長・発達に応じた関わり方、援助の概要を理解する 5. 現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題を理解する
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	小児看護の特徴と理念	小児看護の目ざすところ 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷 小児看護における倫理 小児看護の課題
2	/	子どもの成長・発達	成長・発達とは 成長・発達の進み方(一般的原則) 成長・発達に影響する因子 成長の評価 発達の評価
3	/	新生児・乳児	新生児・乳児 形態的特徴 身体生理の特徴 各機能の発達 運動機能 知的機能 コミュニケーション機能 情緒・社会的機能 乳児の養育および看護
4	/	幼児・学童	幼児・学童 形態的特徴 身体生理の特徴 感覚機能 運動機能 知的機能 コミュニケーション機能 情緒・社会的機能 幼児の養育および看護 不適応行動・症状 学童を取り巻く諸環境 学童の養育および看護
5	/	思春期・青年期の子供	形態的特徴 身体生理の特徴 知的・情緒(心理)的・社会的機能 生活の特徴 心理・社会的適応に関する問題 飲酒・喫煙 性に関する健康問題 反社会的・逸脱行動 事故・外傷 思春期の看護
6	/	家族の特徴とアセスメント	子どもにとっての家族とは 家族アセスメント
7	/	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉 母子保健 医療費の支援 予防接種 学校保健 食育 特別支援教育 臓器移植法
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:	小児看護は生命の発生から始まり、成人への移行期まで連続性のある対象として広くとらえる。成長過程の各時期のニーズに応じた支援を提供するための基礎を学ぶ。		
使用テキスト:	奈良間美保編「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)		
参考文献:	必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	小児看護学方法論Ⅰ			担当教員	永山 治美
開講時期	1年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	小児と家族を取り巻く社会・環境・疾病の経過に応じた科学的根拠に基づいた基本的な看護について学ぶ。小児看護に必要なアセスメントの基本を学ぶ。
目標	1. 病気や障害を持つ子供と家族の看護について理解する。 2. 子供の状況に特徴づけられる看護、子どもにおける疾病の経過と看護について理解できる 3. 子どものアセスメント技術、症状を示す子どもの看護について理解できる 4. 検査・処置を受ける子どもの看護、障害のある子どもの看護、子どもの虐待と看護について理解できる
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	病気・障害を持つ子供と家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護
2	/	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護
3	/	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護
4	/	子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期・急性期にある子どもと家族の看護
5	/	子どもにおける疾病の経過と看護	周手術期・終末期にある子どもと家族の看護
6	/	子どものアセスメント	アセスメントに必要な技術
7	/	子どものアセスメント	身体的アセスメント
8	/	症状を示す子供の看護	①不機嫌 ②啼泣 ③痛み ④呼吸困難 ⑤チアノーゼ ⑥ショック
9	/	症状を示す子供の看護	⑦意識障害 ⑧痙攣 ⑨発熱 ⑩嘔吐 ⑪下痢 ⑫便秘
10	/	症状を示す子供の看護	⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血 ⑰発疹 ⑱黄疸
11	/	検査・処置を受ける子どもの看護	検査・処置総論 薬物動態と薬容量の決定
12	/	検査・処置を受ける子どもの看護	検査・処置各論
13	/	障害のある子どもと家族看護	障害の捉え方 障害のある子どもと家族の特徴 障害のある子どもと家族への社会的支援
14	/	子どもの虐待と看護	子どもの虐待への対策の経緯と現状 子どもの虐待と求められるケア
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		奈良間美保編「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ			担当教員	永山 治美
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的な根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	看護総論 おもな疾患 ダウン症候群 18トリソミー症候群 他 疾患をもった子どもの看護
2	/	新生児の看護	新生児疾患 低出生体重児の疾患 他 疾患をもった子どもの看護
3	/	代謝性疾患と看護	先天性代謝異常症 I型糖尿病 他 疾患をもった子どもの看護
4	/	内分泌疾患と看護	下垂体疾患 甲状腺疾患 他 疾患をもった子どもの看護
5	/	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護	アレルギー疾患 原発性免疫不全症 他 疾患をもった子どもの看護
6	/	感染症と看護	ウイルス感染症 細菌感染症 他 疾患をもった子どもの看護
7	/	呼吸器疾患と看護	上気道の疾患 気管支・肺・胸膜疾患 他 疾患をもった子どもの看護
8	/	循環器疾患と看護	先天性心疾患 後天性心疾患 他
9	/	循環器疾患と看護	ファロー4徴症の子供の看護 川崎病の子供の看護
10	/	消化器疾患と看護	口腔疾患 食道の疾患
11	/	消化器疾患と看護	胃・十二指腸の疾患 小腸・大腸の疾患 他
12	/	消化器疾患と看護	形態異常のある疾患の子どもの看護
13	/	血液・造血器疾患と看護	貧血 出血性疾患 他
14	/	血液・造血器疾患と看護	貧血のある子どもの看護 出血傾向のある子どもの看護
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		奈良間美保編「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ			担当教員	永山 治美
開講時期	2年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 看護過程の展開をとらえて、子どもと家族の看護について理解できる。 3. プレパレーションの意義と方法について理解できる
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	悪性新生物と看護	看護総論 造血器腫瘍 脳腫瘍 他 疾患をもった子どもの看護
2	/	腎・泌尿器疾患および生殖器疾患と看護	先天性腎・尿路異常 急性・慢性腎臓病 他 疾患をもった子どもの看護
3	/	神経疾患と看護	神経系の先天異常 痙攣性疾患 他 疾患をもった子どもの看護
4	/	運動器疾患と看護	先天性股関節脱臼 脊柱側弯症 骨折 他 疾患をもった子どもの看護
5	/	皮膚疾患と看護	母斑 魚鱗癬 湿疹 皮膚真菌症 他 疾患をもった子どもの看護
6	/	眼疾患と看護	結膜炎 先天性眼瞼下垂 斜視 他 疾患をもった子どもの看護
7	/	耳鼻咽喉疾患と看護	先天性難聴 外耳・中耳の疾患 咽頭の疾患 喉頭の疾患 他 疾患をもった子どもの看護
8	/	精神疾患と看護	発達障害 神経症圏の疾患 統合失調症 他 疾患をもった子どもの看護
9	/	事故・外傷と看護	頭部外傷 誤飲・誤嚥 溺水 熱傷 他 疾患をもった子どもの看護
10	/	事例による看護過程の展開	《1型糖尿病の子どものケア》
11	/	事例による看護過程の展開	《1型糖尿病の子どものケア》
12	/	演習	プレパレーション作成
13	/	演習	プレパレーション作成
14	/	演習	プレパレーション発表
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		奈良間美保編「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児看護学各論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	小児看護学実習			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	小児各期の成長発達の特徴を理解し、成長発達に応じた養護の基本を学ぶ。 健康障害のある患児・家族を理解し必要な看護を学ぶ
目標	1. 小児の発達段階に応じた援助のあり方を理解することができる。 2. 保育園などの社会的役割を理解することができる。 3. 健康障害が、小児や家族の生活に及ぼす影響を理解し、小児に必要な看護を実践できる。 4. 小児の発達段階と病状に応じたアセスメントができる。 5. 小児の成長発達段階と病状に応じた看護技術が実践できる。 6. 自己の看護観を養い、小児医療チームの一員としての看護師の役割を理解することができる。 7. 医療チームの一員である自覚を持ち、看護学生としての責任を果たすことができる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	【病棟実習】(20 時間) 1. 子どもとその家族を尊重した人間関係を築くことができる。 2. 子どもの健康障害の程度、発達段階に適した安全管理が実践できる。 3. 子どもその家族に係る情報収集とアセスメントができる。 4. 子どもの健康障害の程度、発達段階、自律性を考慮した看護実践ができる。 5. 小児にかかわる看護専門職者としての基本的姿勢を理解し、保健医療チームの一員として行動できる。 【外来実習(クリニック含む)】(20 時間) 1. 小児外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. 健康問題を持つ小児と家族に及ぼす影響を把握し、適切な看護について学ぶ。 【保育園実習】(30 時間) 1. 子どもの形態・機能、心理・社会的特徴を理解できる。 2. 子どもの発達段階(自立度)と自律性を考慮した基本的生活習慣(食事、清潔、衣服の着脱、排泄、睡眠・休息)の援助やしつけができる。 3. 子どもの安全を配慮した行動(環境調整・健康状態の把握ほか)ができる。 4. 子どもの発達段階に応じた遊びの実践ができる。 5. 子どもの発達段階に適したコミュニケーション(ユーモアの活用)がとれる。 6. 子どものさまざまな言動に対し、受容的態度がとれる。 7. 子どもに対し教育的配慮のある言葉使い、行動、態度がとれる。 8. 子どもとの関わりに適切な身だしなみや健康状態で実習できる。 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 小児看護学概論・小児看護方法論Ⅰ・小児看護方法論Ⅱ・小児看護方法論Ⅲ
使用テキスト	奈良間美保他「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院) 奈良間美保他「系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	母性看護学概論			担当教員	篠原 由加梨
開講時期	1年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	母性看護の概念、母性各期の特徴と発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を把握し、母性の保健対策を学ぶ。
目標	1. 女性の一生としての母性を、ライフステージ毎に理解できる。 2. 母性看護の変遷と現状が理解できる 3. ライフサイクルにおける女性の健康について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	母性看護の基盤となる概念	母性とは 母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ
2	/	母性看護の基盤となる概念	ヘルスプロモーション 母性看護の在り方 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防
3	/	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の提供システム
4	/	母性看護に必要な看護技術	母性看護における看護過程 情報収集・アセスメント技術 母性看護に使われる看護技術
5	/	女性のライフステージ各期における看護	ライフサイクルにおける女性の健康と看護
6	/	女性のライフステージ各期における看護	思春期の健康と看護
7	/	女性のライフステージ各期における看護	性成熟期の健康と看護 更年期・老年期の健康と看護
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅰ			担当教員	永山 治美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	妊娠期にある対象について、身体的・心理的・社会的特徴および胎児の発育について理解し、母子が健康な妊娠期を過ごすための、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. 非妊娠時の女性への身体的・精神的・社会的側面から看護を理解する。 2. リプロダクティブヘルスについて理解する。 2. 妊娠中の女性の身体的・精神的・社会的特徴と、胎児の成長発達について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	母性看護の対象の理解	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承 母性看護における看護過程
2	/	リプロダクティブヘルスケア	家族計画 性感染症とその予防 HIV に感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護 喫煙と女性の健康 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護 国際化社会と看護
3	/	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	子どもを産み育てること 母親になるということ 不妊治療を受けて妊娠した妊産婦の姿 子どもを産み育てることと看護を学ぶにあたって
4	/	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	リプロダクティブヘルスケアの必要性 遺伝相談 不妊治療と看護
5	/	妊娠期における看護	妊娠期の看護 妊娠の成立
6	/	妊娠期における看護	妊娠に伴う母体変化 母体の生理的变化
7	/	妊娠期における看護	妊娠期の心理的・社会的特性
8	/	妊娠期における看護	胎児の発育 妊娠の経過と診断
9	/	妊娠期における看護	胎児の発育と健康状態の診断
10	/	妊娠期における看護	妊婦と胎児の健康状態のアセスメント
11	/	妊娠期における看護	妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント
12	/	妊娠期における看護	妊娠期のアセスメントの重要性
13	/	妊娠期における看護	妊婦と家族の看護・保健指導
14	/	妊娠の異常	妊娠の異常と看護 ハイリスク妊娠 妊娠経過と異常
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」(医歯薬出版株式会社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ			担当教員	永山 治美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	正常に経過する分娩各期の対象の特徴について学ぶ。母子にとって安全・安楽な分娩期を過ごすために、科学的根拠に基づいた分娩各期の基礎的な看護を理解する。
目標	1. 分娩時の看護を理解する。 2. 分娩の経過を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	分娩期における看護	分娩の要素 ・分娩とは ・分娩の3要素
2	/	分娩期における看護	分娩の要素 ・胎児と子宮および骨盤との関係 ・分娩の機序
3	/	分娩期における看護	分娩の経過 ・分娩の進行と産婦の身体的変化
4	/	分娩期における看護	分娩の経過 ・産婦の身体的変化 ・産痛 ・産婦の心理・社会的変化
5	/	分娩期における看護	産婦・胎児、家族のアセスメント 産婦と家族の看護
6	/	分娩期における看護	分娩期の看護の実際
7	/	分娩期における看護	産婦・胎児・家族のアセスメント ①産婦と胎児の健康状態のアセスメント
8	/	分娩期における看護	産婦と家族のアセスメント ①看護目標と産褥のニーズ
9	/	分娩期における看護	分娩期の看護の実際 ①分娩第1期までの看護 ②分娩第2期までの看護
10	/	分娩期における看護	③分娩第2期の看護 ④分娩第3. 4期の看護
11	/	分娩の異常と看護	妊娠持続期間の異常
12	/	分娩の異常と看護	異所性妊娠 ハイリスク妊婦の看護 産道の異常 娩出力の異常
13	/	分娩の異常と看護	胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常 胎児の機能不全
14	/	分娩の異常と看護	分娩時の損傷 分娩第3期および分娩直後の異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」(医歯薬出版株式会社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ			担当教員	永山 治美
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	褥婦の正常な経過や生理的变化について学ぶ正常に経過するための援助、異常児の援助について科学的な根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。
目標	1. 産褥時の女性への看護を理解できる。 2. 妊娠・分娩・新生児・褥婦の異常を知り、対象に応じた看護がわかる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	新生児期における看護	新生児の生理 ①新生児とは ②新生児の機能
2	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ①新生児の診断
3	/	新生児期における看護	新生児のアセスメント ②新生児の健康状態のアセスメント
4	/	新生児期における看護	新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護
5	/	新生児期における看護	③生後1カ月健診に向けた退院時の看護
6	/	産褥期における看護	産褥経過 ①産褥期の身体的変化 ②産褥期の心理・社会的変化 褥婦のアセスメント
7	/	産褥期における看護	褥婦と家族の看護 施設退院後の看護
8	/	新生児の異常と看護	新生児仮死 分娩外傷 低出生体重児
9	/	新生児の異常と看護	高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症
10	/	産褥の異常と看護	子宮復古不全 産褥期の発熱 産褥血栓症 精神障害 異常のある褥婦の看護
11	/	産褥の異常と看護	育児に困難さをかかえる母親への看護 児をなくした褥婦・家族の看護
12	/	産褥の異常と看護	メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援
13	/	演習 沐浴	沐浴の実際
14	/	演習 沐浴	沐浴の実際
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		森恵美編「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」(医歯薬出版株式会社)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	母性看護学実習			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	母性看護における対象理解や母児やその家族への看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、臨床判断を行うための基礎的看護実践能力を養う。
目標	1. 妊産褥婦および新生児の生理的变化と母児や家族の支援について理解できる。 2. 妊産褥婦および新生児における基礎的な看護技術と態度を身につけることができる。 3. 母児の経過に応じた健康状態をアセスメントし必要な支援方法を理解できる。 4. 母性看護の地域における現状や対象を理解し看護の役割について考えることができる。 5. 母性看護学実習を通し、生命の尊さ、母性・父性観について考えることができる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 母性看護の現状からニーズが理解できる。 2. 母性看護における地域連携の必要性や助産所の活動を知り、母性看護活動が理解できる。 3. 性教育における現状を知り、看護の視点で考えることができる。 4. 産褥・新生児期のある対象のウェルネス状態や科学的根拠に基づいた臨床判断を行い、必要な看護を実践できる。 5. 母性看護の看護実践に必要な基本的態度を身につけることができる。 6. 妊娠時の母児の経過及び健康について理解できる。 7. 分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護が理解できる。 8. 産褥期の身体的、精神的、社会的変化の特徴と看護を理解できる。 9. 母児および家族の継続支援の必要性を理解できる。 10. 母児にかかわる諸制度と母子保健医療チームの連携について理解できる。 11. 新生児が子宮外生活に適応していく過程を理解できる。 12. 妊産褥婦における基礎的看護技術と態度を身につけることができる。 13. 生命の尊さや自己の母性観・父性観について考えることができる。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 母性看護学概論・母性看護学方法論Ⅰ・母性看護学方法論Ⅱ・母性看護学方法論Ⅲ
使用テキスト	森恵美他「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論」(医学書院) 森恵美他「系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学概論」(医学書院) 太田操「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版」(医歯薬出版)
備考	

専門分野

授業科目名	精神看護学概論			担当教員	深堀 友覚
開講時期	1 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	人格を支える精神の活動、精神の健康と障害、人間の心のしくみと人格の発達や人間関係について学ぶ。精神障害という捉え方を学び、対象や家族の支援の基本的な考え方を学ぶ。
目標	1. 看護における精神看護の果たす役割について理解する。 2. 精神看護の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる。 3. 精神障害者を支える、保健・医療・福祉制度について理解できる。
評価方法	1.筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	第1章 精神看護学で学ぶこと	精神看護学とは何か 精神障害を持つ人の病の体験と精神看護
2	/	第1章 精神看護学で学ぶこと	「心のケア」と日本社会 災害と「心のケア」 日本における自殺問題とメンタルヘルス
3	/	第1章 精神看護学で学ぶこと	精神看護の課題 世界的な課題としてのメンタルヘルス
4	/	第1章 精神看護学で学ぶこと	精神看護の課題 多様化する精神科医療のニーズ
5	/	第2章 精神保健の考え方	精神の健康とは 心身の健康に及ぼすストレスの影響
6	/	第2章 精神保健の考え方	心的外傷(トラウマ)と回復
7	/	第2章 精神保健の考え方	精神障害という捉え方
8	/	第3章 心のはたらきと人格の形成	心のはたらき 意識と認知機能 感情 学習と行動
9	/	第3章 心のはたらきと人格の形成	心のはたらき 知能 心の理論 心理的特性をはかる検査
10	/	第3章 心のはたらきと人格の形成	心のしくみと人格の発達 人格と気質 意識と無意識 よい乳房・わるい乳房ー対象
11	/	第3章 心のはたらきと人格の形成	心のしくみと人格の発達 ライフサイクルとアイデンティティー 愛着と心の安全の基地
12	/	第4章 関係の中の人間	システムとしての人間 システムとは何か 二者間における2つの関係パターン
13	/	第4章 関係の中の人間	全体としての家族 家族と精神の健康 家族の関係性とコミュニケーション
14	/	第4章 関係の中の人間	人間と集団 集団と個人 グループの活用 全体としてのグループ
15	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	精神看護学方法論Ⅰ			担当教員	樋口 喜代美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	精神症状や徴候を知り、精神障害の診断と分類、精神科における治療について学び、科学的根拠に基づいた適切な治療や看護について学ぶ。精神障害に関する歴史、法制度について学ぶ。
目標	1. 精神看護における症状のとらえ方」を理解する。 2. 精神療法とはどのようなものか、実際どのように用いられているのかを理解する。 3. 精神障害者を支える保健医療福祉制度について理解できる。
評価方法	筆記試験(100%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	第5章 精神科疾患のあらわれ方	精神を病むことといさる 「病いの経験」の理解への手がかり さまざまな病気の説明の仕方をさぐる	樋口
2	/	第5章 精神科疾患のあらわれ方	精神症状論と状態像 症状とは何か さまざまな精神症状	樋口
3	/	第5章 精神科疾患のあらわれ方	精神障害の診断と分類 ① 診断と疾病分類 ②統合失調症 ③気分「感情」障害	樋口
4	/	第5章 精神科疾患のあらわれ方	精神障害の診断と分類 ④神経症性障害 ⑤精神作用物質使用による障害 ⑥各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調	樋口
5	/	第6章 精神科での治療	精神科における治療 精神療法 薬物療法 電気けいれん療法その他 環境療法・社会療法	樋口
6	/	第7章 社会のなかの精神障害	精神障害と治療の歴史 日本における精神医学・精神医療の流れ	樋口
7	/	第7章 社会のなかの精神障害	精神障害と文化 多様性と普遍性 精神障害と社会学 精神障害と法制度 その他	樋口
8	/	第8章 ケアの人間関係①	ケアの前提、ケアの原則	樋口
9	/	第8章 ケアの人間関係②	ケアの方法、人間関係のアセスメントする	樋口
10	/	第8章 ケアの人間関係③	患者-看護師関係、チームダイナミクス	樋口
11	/	第9章 回復を支援する①	回復の意味、リカバリーのビジョン	樋口
12	/	第9章 回復を支援する②	治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点	樋口
13	/	第9章 回復を支援する③	リカバリーを促す環境	樋口
14	/	第9章 回復を支援する④	回復のためのプログラム、リカバリーのプログラム	樋口
15	/	試験	筆記試験	樋口
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名		精神看護学方法論Ⅱ		担当教員	樋口 喜代美
開講時期	2 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／30 時間
目的	看護ケアの原則を学び、入院環境を整える重要性、心理的・身体的なケアのもつ意味を理解する。また、基本的な看護について学ぶ。				
目標	1. 人間関係を土台に精神看護の果たす役割が理解できる 2. 精神障害者の社会復帰、地域との結びつき、重要性について理解できる				
評価方法	1.筆記試験(100%)				
回	日時	授業内容	内容	担当者	
1	/	第 11 章 入院治療の意味①	精神科を受診すること	樋口	
2	/	第 11 章 入院治療の意味②	治療の器としての病院・病棟	樋口	
3	/	第 11 章 入院治療の意味③	入院中の観察とアセスメント	樋口	
4	/	第 11 章 入院治療の意味④	ケアの方向性を考える	樋口	
5	/	第 11 章 入院治療の意味⑤	退院に向けての支援とその実際	樋口	
6	/	第 12 章 身体をケアする①	精神科における身体へのケア 精神科における身体を通した看護ケアの実際	樋口	
7	/			樋口	
8	/	第 12 章 身体をケアする②	精神科の治療に伴う身体へのケア 身体合併症のアセスメントとケア	樋口	
9	/			樋口	
10	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	「器」としての地域、地域における生活支援の方法	樋口	
11	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	地域における生活支援の方法、ケアの方法と実際	樋口	
12	/	第 10 章 地域におけるケアと支援	学校におけるメンタルヘルスと看護 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	樋口	
13	/	第 13 章 安全をまもる	緊急事態に対処する	樋口	
14	/	第 13 章 安全をまもる	緊急事態とスタッフの支援	樋口	
15	/	試験	筆記試験	樋口	
履修者へのコメント:					
使用テキスト:		武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」(医学書院)			
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。			

専門分野

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ			担当教員	折笠 順子
開講時期	2 年次後期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	医療の場やそれ以外の場における精神看護と看護師のメンタルヘルスについて知り、看護師への支援について学ぶ。事例の展開を通して精神看護の視点を学ぶ。
目標	1. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響についてわかる。 2. 対人援助には不可欠の感情労働とは何かを理解する。 3. 事例を通して看護過程を展開することで精神疾患患者の理解が深まる。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	第 14 章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護	身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス リエゾン精神看護とその活動
2	/	第 14 章 医療の場におけるメンタルヘルスと看護	リエゾナーズの活動の実際 看護師のメンタルヘルスへの支援
3	/	第 15 章 災害時のメンタルヘルスと看護	災害時における心のケア 災害にみまわれた人の心のケア 支援者のメンタルヘルスとケア
4	/	第 16 章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	看護師の不安と防衛 感情労働としての看護
5	/	第 16 章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	看護師の感情ワーク 看護における共感の光と影
6	/	第 16 章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	感情労働の代償と社会 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント
7	/	事例展開 (グループワーク)	精神障害のある人の看護過程 看護アセスメント・看護問題の抽出・ケアプラン立案
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(医学書院) 武井麻子編「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	精神看護学実習			担当教員	専任教員
開講時期	2 年次 後期	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	精神に障害を抱えた対象の生活や生き方について考え、対象を取り巻く環境や社会の役割について理解する。精神に障害を抱えた対象と家族の援助を実践する能力を養うと共に、相互関係の中で人間を尊重する態度を養う。
目標	1. 精神に障害を抱えた対象との関わりを通して受け持ちの対象を理解する。 2. 精神に障害を抱えた対象や家族への援助方法を理解し、その一部を実践できる。 3. 人権や安全に配慮した管理の実際を理解し、援助できる。 4. 地域で生活している対象に必要な支援について理解する。 5. 自己と対象とのかかわりを振り返り、相互関係を理解できる。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 受け持ち患者と行動をともし、言動、人とのつき合い方、過ごし方を通して生活力や困っていることを把握できる。 2. 受け持ち患者の生活力や困ることを患者と共に確かめ合うことができる。 3. 受け持ち患者が自分の病気をどのように受け止めているかを理解することができる。 4. 発症の契機と入院に至った経緯を把握し、症状や病態、治療について理解することができる。 5. 受け持ち患者の入院の理由を考えることができる。 6. 受け持ち患者が将来についてどのようにしたいと思っているかを理解できる。 7. 受け持ち患者の課題やニーズのついて考えることができる。 8. 人間関係の基本技術を実施することができる。 9. プロセスレコードを通して治療的人間関係技術を振り返ることができる。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 精神看護概論・精神看護学方法論Ⅰ・精神看護学方法論Ⅱ・精神看護学方法論Ⅲ
使用テキスト	武井麻子他「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎」(医学書院) 武井麻子他「系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開」(医学書院)
備考	

専門分野

授業科目名	看護研究Ⅰ			担当教員	村 竜次
開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	看護研究の目的・方法・研究過程・研究計画立案などについて理解し、看護研究の基礎を習得する。自己の研究テーマを明確にし、看護研究を実施・発表するための手法と過程を学ぶ。
目標	看護研究テーマを明確にし、研究を実践・発表するための手法と過程を理解する
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	看護研究とは	A. 看護研究とはなにか B. なぜ看護研究を学ぶのか C. 看護研究の歴史 D. 看護研究への期待
2	/	看護研究の始め方 -リサーチクエスチョンを たてる-	A. リサーチクエスチョンとは B. リサーチクエスチョン決定までのプロセス
3	/	情報の検索と吟味 -文献レビューとその方法	A. 情報と科学的な根拠 B. 文献とその種類 C. 文献レビューとその目的 D. 文献検索の方法 E. 文献の入手と整理 F. 文献の読み方 G. 文献レビューの記述
4	/	研究における倫理的配慮	A. 研究における倫理的配慮の原則 B. 依頼書と同意書の書き方 C. 特別な配慮が必要な場合の対応 D. 依頼書・同意書の例
5	/	研究デザイン -研究設計と方法の選択-	A. 看護における研究デザインの多様性 B. 研究デザインの選択 C. 研究デザインの整理 D. 質的研究デザイン E. 量的研究デザイン F. ミックスドメソッド G. 尺度開発
6	/	データの収集	A. データとは B. 標本の選択 C. データの収集法 D. インタビューデータ収集の手順 E. アンケートデータの収集 F. 開発された尺度の活用 G. 観察データの収集 H. 生理学的測定データ
7	/	研究計画書の作成	A. 研究計画書とは B. 研究計画書の書式と書き方 C. 研究計画書の例
8	/	試験	筆記試験
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		使用しない。必要に応じて講義資料を配布する。	
参考文献:		参考となる文献は講義時に随時紹介する。	

専門分野

授業科目名	看護研究Ⅱ			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	看護研究の目的・方法・研究過程・研究計画立案などについて理解し、看護研究の基礎を習得する。 自己の研究テーマを明確にし、看護研究を実施・発表するための手法と過程を学ぶ。
目標	看護研究テーマを明確にし、研究を実践・発表するための手法と過程を理解する
評価方法	1.評価表に基づいて評価(90%) 2.参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	オリエンテーション	看護研究のプロセス
2	/	看護研究論文の作成①	テーマ設定について 看護研究計画書の作成
3	/	看護研究論文の作成②	看護研究計画書の修正 テーマ修正
4	/	看護研究論文の作成③	論文構成
5	/	看護研究論文の作成④	論文内容の修正
6	/	看護研究発表にむけて①	発表会資料および原稿の作成
7	/	看護研究発表にむけて②	発表会ガイダンス・発表リハーサル
8	/	試験	研究発表
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		使用しない。必要に応じて講義資料を配布する。	
参考文献:		参考となる文献は講義時に随時紹介する。	

専門分野

授業科目名	看護学概論Ⅱ (管理・倫理・災害・国際)			担当教員	神田 直孝・依田茂樹
開講時期	3年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／30 時間

目的	【看護管理】安全で安心な看護を提供するために看護管理について学び、組織の一員として必要な管理と課題を理解し、看護実践に活かせる基礎的な能力を高める。 【看護倫理】倫理の意味や倫理原則を学び、倫理的感受性を高める。また、倫理上の問題を把握し、今後の看護実践に活かせる基礎的な能力を高める。 【災害看護】保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解し、災害医療の基礎知識を学び、災害看護に参加するための基礎的な能力を養う。 【国際看護】国際看護の基礎知識を学び、国際看護の展開や開発・協力・国際救援の活動について知識を深める。
目標	1. 対象に安全で安楽な看護実践を提供するための看護管理の基本を理解する 2. 保健医療福祉にかかわる倫理上の問題を理解する。 3. 災害時における看護師の役割を理解する。 4. 国際看護の意味を理解し、国際救援活動について知識を深める。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【看護管理】 看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント	A. 看護管理学とは B. 看護におけるマネジメント A. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 B. 患者の権利の尊重 C. 安全管理 D. チーム医療 E. 看護業務の実践	神田
2	/	看護職のキャリアマネジメント	A. キャリアとキャリア形成 B. 看護職のキャリア形成 C. 看護専門職としての成長 D. タイムマネジメント E. ストレスマネジメント	神田
3	/	看護サービスのマネジメント	A. 看護サービスのマネジメント B. 組織目的達成のマネジメント C. 看護サービス提供のしくみづくり D. 人材のマネジメント E. 施設・設備環境のマネジメント F. 物品のマネジメント G. 情報のマネジメント H. 組織におけるリスクマネジメント Iサービス評価	神田
4	/	マネジメントに必要な知識と技術	A. マネジメントとは B. 組織とマネジメント C. リーダーシップとマネジメント D. 組織の調整	神田
5	/	看護を取り巻く諸制度	A. 看護の定義 B. 看護職 C. 医療制度 D. 看護政策と制度	神田
6	/	【看護倫理】 倫理学の基本的な考え方	A. 倫理とは何か B. 倫理理論 C. 他者理解と対話のための理論	神田
7	/	生命倫理 性と生殖の生命倫理	A. 生命倫理とは何か B. 生命倫理の理論 C. 生命倫理と看護師の責務 A. 性の生命倫理 B. 生殖の生命倫理	神田
8	/	死の生命倫理 先端医療と制度をめぐる生命倫理	A. 死について B. 死と医療 C. 死についての生命倫理の課題 A. 移植医療 B. 再生医療 C. 遺伝子医療 D. 医療資源と医療保険制度	神田

回	日時	授業内容	内容	担当者
9		看護倫理とはなにか 専門職の倫理	A. 看護倫理を学ぶ意義 B. 看護倫理の歴史 C. 看護の倫理原則 D. 看護実践上の倫理的概念 E. 看護実践と倫理 A. 社会から見た看護 B. 専門職に求められる倫理 C. 専門職の倫理綱領 D. 看護業務基準と倫理実践 E. 保健師助産師看護師法と倫理	神田
10		倫理問題へのアプローチ	A. 看護実践における倫理的問題の特徴 B. 倫理的問題へのアプローチ	神田
11		【災害看護学】	A. 災害看護の歩み B. 災害医療の基礎知識 C. 災害看護の基礎知識 D. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	依田
12		災害看護学	E. 被災者特性に応じた災害看護の展開 F. 災害とこころのケア	依田
13		地震災害看護の展開	A. 発災直後から出動までの看護 B. 急性期の看護 C. 亜急性期の看護 D. 慢性期・復興期の看護	依田
14		【国際看護学】 災害看護学・国際看護学 における教育・	A. 国際看護学とは B. グローバルヘルス C. 国際協力のしくみ D. 文化を考慮した看護 E. 国際看護活動の展開過程 F. 開発協力と看護 G. 国際救援と看護 A. 災害看護学・国際看護学における教育 B. 災害看護学・国際看護学と研究	依田
15	/	試験		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:		上泉和子他「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理」(医学書院) 竹下喜久子編「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学」(医学書院)		
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。		

専門分野

授業科目名	医療安全			担当教員	池上 吾郎
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	医療現場における事故を通し、患者の安全及び組織としての安全を守ることの重要性について理解を深める。
目標	1. 事故防止の基本的な考え方がわかる。 2. 診療の補助・療養上の世話の事故防止を理解する。 3. 労働安全衛生上の事故防止を理解する。
評価方法	1.筆記試験(90%) 2.授業への参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	事故防止の考え方を学ぶ	A. 医療事故と看護業務 B. 看護事故の構造 C. 看護事故防止の考え方
2	/	診療の補助時の事故防止	A. 業務特性からみた患者の投与する業務の事故防止 B. 注射業務と事故防止 C. 注射業務に用いる機器での事故防止 D. 輸血業務と事故防止
3	/	診療の補助時の事故防止	E. 内服与薬業務と事故防止 F. 経管栄養業務と事故防止 G. チューブ管理と事故防止
4	/	療養の世話の事故防止	A. 療養上の世話における2群の事故のとらえ方と防止 B. 転倒・転落防止事故
5	/	療養の世話の事故防止	C. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 D. 異食事故防止 E. 入浴中の事故防止
6	/	医療安全とコミュニケーション	A. 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 B. 事故防止のための医療機関のコミュニケーション C. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション D. 事故の未然防止上重要なコミュニケーション
7	/	看護師の労働安全衛生上の事故防止	A. 職業感染 B. 抗がん剤の曝露防止 C. 放射線被曝 D. ラテックスアレルギー E. 院内暴力
8	/	試験	
履修者へのコメント:			
使用テキスト:		川村治子「系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全」(医学書院)	
参考文献:		必要に応じて講義資料を配布する。	

専門分野

授業科目名	臨床看護技術			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次後期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	既習の看護技術を振り返り、根拠に基づく看護技術を統合し実践する。 自らの看護技術向上のための学習課題を明確にし、卒業後も自己研鑽を続ける心構えができる。
目標	1. 日常生活援助技術を、安全・安楽に注目し、科学的根拠を明確にし、手際よく実施できるようになる。 2. 対象の身体的情報を正確に得るためのフィジカルアセスメント能力を身に着ける。 3. 診療の補助技術の実施及び観察事項についてモデル人形を使用し確認できる。 4. 卒後の臨床現場にスムーズに適応することができることを目的とする。
評価方法	1.筆記試験(60%) 2.技術試験(30%) 3.参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	日常生活援助技術	1. 模擬患者を設定し、事前のアセスメントを行う
2	/		2. 安全・安楽に行える方法を考える。 3. 実施。 4. 振り返りをし、自己評価を行う。不足部分を明確にする。
3	/	フィジカルアセスメント	1. 学生間で実際にフィジカルアセスメントを行う。
4	/		2. 医学用語を使用してアセスメント後の内容を記載する。 3. 振り返りをし、自己評価を行う。不足部分を明確にする。
5	/	与薬の技術	・点滴静脈内注射
6	/		・輸液ポンプの操作 ・シリンジポンプの操作 ・中心静脈カテーテル ・薬剤管理 ・インスリン ・輸血管理
7	/	ドレーン管理	・膀胱留置カテーテル
8	/		・PEG カテーテル交換 ・胸腔ドレーン管理 ・気管内吸引 ・経管栄養管理 ・ストーマ管理
履修者へのコメント:		事前の科学的根拠の明確なレポートを求める。	
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 医療情報科学研究所「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」(メディックメディア) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
参考文献:			

専門分野

授業科目名	統合シミュレーション			担当教員	根井 ひとみ
開講時期	3 年次前期	授業形態	講義・演習	単位／時間	1 単位／15 時間

目的	看護統合実習に向けて、根拠のある臨床判断を行い、看護が実践できる基本的な能力を養う。また、看護管理、看護師の役割、態度を学ぶ。
目標	1. 基礎分野から専門分野までに学んだ看護の知識・技術を基に、複合した治療処置、生活援助技術を必要とする対象の援助を考え、技術の実践を行う。 2. 患者の看護の優先度、および複数患者の看護の優先度を考えることができる。 3. 自己の看護技術の到達度と課題を明確にする。
評価方法	1.筆記試験(60%) 2.レポート(30%) 3.参加態度・状況(10%)

回	日時	授業内容	内容
1	/	統合分野の位置づけと 本科目の位置づけ	看護の仕事とは 1. 現在、考える看護の仕事とは何か 2. 看護師として働くとは 3. 複数患者を受け持つための情報収集 4. 一日のスケジュールの立て方と業務時間の管理
2	/	複数患者の看護	課題:優先順位 1. 患者A・Bそれぞれの状態 2. 患者A・Bそれぞれに必要な看護 3. 患者A・Bそれぞれに必要な看護の優先度 4. 患者間における優先順位とその理由 5. 報告・連絡・相談の必要性 1～5についてグループワークする 発表とまとめ
3	/		
4	/		
5	/	複数患者の多重課題 の看護実践	1. 多重課題の危険性 2. 多重課題発生時の対処の原則 3. とるべき行動と優先順位、またその理由 －課題事例を基に考える－
6	/		
7	/	看護技術演習	課題 複合的な援助を要する患者への援助 1. 必要な援助方法を考える 2. 演習計画の立案 3. 計画に基づいて、必要な援助を実施 4. 評価
8	/		
履修者へのコメント:		統合実習開始前の重要な授業です。看護師としてチームのメンバーと看護していくには患者の安全・安楽を踏まえ、看護の優先度を考えて援助することが求められます。	
使用テキスト:		有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ」(医学書院) 有田清子他「系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ」(医学書院) 医療情報科学研究所「看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント」(メディックメディア) 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス第4版」(学研メディカル秀潤社)	
参考文献:		必要に応じて講義内で提示します	

専門分野

授業科目名	看護統合実習			担当教員	専任教員
開講時期	3 年次後期	授業形態	オリエンテーション 臨地実習	単位／時間	2 単位／90 時間

目的	看護管理の実際を学び、病院組織における看護の機能と役割をまなぶ。 複数患者の看護の優先度を臨床判断し、時間管理を考慮して援助を行い、チームの一員としての役割を学ぶ。 これまでの学習を振り返り、これからの看護師として自己の課題と看護観を高める。
目標	1. 看護部の役割、病棟看護師長やチームリーダーの役割、病棟管理の実際、他部門との調整などの見学を通して看護管理の実際を学ぶ。 2. 夜勤帯看護師の役割がわかる。 3. 診療の補助技術を安全性、効率性を考えながら見学できる。 4. 複数の患者の看護過程の展開を通して、ケアの優先度を判断しながら看護援助を実践できる。 5. 統合実習で学んだことを通し、チームの一員として自己の目標を明確にするとともに自己研鑽する能力を養う。
評価方法	実習評価表に準ずる
実習内容	1. 病院・病棟における看護管理の実際の見学を通して、看護管理について理解する。 2. 管理者・リーダーから夜勤帯看護師の役割、看護師の配慮や患者の変化等の説明を受けることで夜間業務に対するイメージができる。 3. 複数課題の優先順位を科学的根拠に基づいて判断し、看護を実践する。 4. 受け持ち患者の状況に応じて援助の優先に応じたチーム内調整ができる。 5. 複数患者を受け持ちケアの優先度を判断しながら行動計画を立案し援助を行うことができる。 6. 患者の安全・安楽・自立を考慮した看護ができる。 7. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解する。 【病院実習】(70 時間) 【学内実習】(20 時間)
履修者へのコメント	1. 次の科目単位が修得されていること 基礎看護学領域の科目 1 年次・2 年次・3 年次の学習すべて
使用テキスト	1 年次・2 年次・3 年次のテキストすべて
備考	